令和6年 第4回 築上町議会定例会会議録 (第3日)

令和6年12月9日 (月曜日)

議事日程 (第3号)

令和6年12月9日 午前10時00分開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員 (13名)

1番 今富 義昭君	2番 江本 守君
4番 田原 宗憲君	5番 工藤 久司君
6番 田村 紘貴君	7番 宗 裕君
8番 丸山 年弘君	9番 信田 博見君
10番 池永 巖君	11番 武道 修司君
12番 塩田 文男君	13番 吉元 健人君
14番 池亀 豊君	

欠席議員 (1名)

3番 鞆野 希昭君

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

局長 横内 秀樹君	係長 瀬戸 美里君 (監査委員事務局係長兼任)
書記 小野 聖佳君	

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……………	新川 久三君	副町長 ……………	八野 紘海君
教育長 ……………	久保ひろみ君	会計管理者兼 会計課長 ……………	石井 紫君

総務課長	……………	椎野 満博君	企画財政課長	……………	元島 信一君
まちづくり振興課長	…	桑野 智君	人権課長	……………	武道 博君
税務課長	……………	田村 貴志君	子育て・健康支援課長	…	吉川 千保君
保険福祉課長	……………	種子 祐彦君	産業課長	……………	古市 照雄君
建設課長	……………	神崎 秀一君	都市政策課長	……………	首藤 裕幸君
上下水道課長	……………	福田 記久君	住民生活課長	……………	西田 哲幸君
学校教育課長	……………	鍛冶 孝広君	生涯学習課長	……………	尾座本三雄君
教育施設整備室長	……	樽本 知也君	農業委員会事務局長	…	山本健太郎君

質 問 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨
江本 守	1. 町の将来について	<p>①愛知県豊田市で、「水道DX～人工衛星と水道管の健康診断」という、人工衛星とAIを使って水道管の維持管理を効率化する取組がある。本町でも取り組んでみてはどうかか。</p> <p>②大分市の企業が、地震で学校の外壁が倒れ子どもが死亡した事故を受けて、優れた耐久性を持つプレキャストコンクリートの開発に成功した。本町でも導入を検討してはどうかか。</p> <p>③環境省が、PayPayドーム福岡の屋根にペロブスカイト太陽電池の設置を支援すると聞く。次世代太陽電池として国が支援する最大規模の導入になるようだが、本町でも小中一貫校の開校に合わせて導入を検討してはどうかか。</p> <p>④福岡市の中学校では、クラス担任を1人に固定せず、複数の教員がローテーションで担う「チーム担任制」が始まっている。教員の業務負担軽減やきめ細かい指導ができるなどの効果が期待されているが、本町の教員の働き方改革はどのようになっているか。</p> <p>⑤みやこ町では、下水道使用料を人头割から従量制への変更を希望する町民が9割というアンケート結果を受け、議会の承認が得られれば新年度に向けて検討していると聞くが、本町でも前向きに検討してはどうかか。</p> <p>⑥現在、清掃センターでのRDF製造に多額の予算が投入されている。今後、再生可能エネルギーとして、ごみ焼却から電気を作り出す産廃物発電ができる施設へ切り替える必要があると考えるが、町の考えを問う。</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
江本 守	1. 町の将来について	<p>⑦利用者の少ないコミュニティバスの代わりに、BRT（バス高速輸送システム）を導入してはいかがか。</p> <p>⑧本町に、近い将来大型スーパーの進出が予定されており、実現すれば約140名もの正規雇用が生まれると聞く。町の移住・定住につながる素晴らしいことだと考えるが、町の考えを問う。</p> <p>⑨公共賃貸住宅サン・コーポ椎田に外付けでエレベーターを設置できないか。</p> <p>⑩山間部の空き家が、老朽化に伴い個人負担では改築が難しい部分があるため、町が支援できるよう前向きに検討できないか。</p> <p>⑪山口県宇部市にある企業が、法面の浸食防止等多目的に活用できるドライマットを開発し、注目を集めている。本町でも、山間部の砂防ダム建設前に、危険箇所の応急処置として活用してはと考えるが、町の考えを問う。</p> <p>⑫米の価格が高止まりしている中、筑前町では全町民3万人に新米5キロの無料配布を決めた。本町でも、せめて1世帯5キロのお米無料券を配布しては。</p>
田村 紘貴	1. 公用車について	<p>①公用車の台数については、適切な台数と考えているのか。</p> <p>②公用車のEV化について検討してみてもどうか。</p>
	2. 企業誘致について	<p>①企業誘致に対する町の取組の現状を問う。</p>
	3. 町政について	<p>①2024年を振り返って、どう評価しているのか町長に問う。</p> <p>②今後、重点的に取り組むべきことは何だと考えているか。</p>

質問者	質問事項	質問の要旨
吉元 健人	1. 投票済証明書の発行について	①築上町では、投票済証明書は選挙の時に発行されているのか。期日前投票を行った場合でも発行されているのか。
	2. 築上町図書館「築きのもり」について	①令和7年11月オープンに向けての工事進捗状況と、カフェ公募状況などの現状について問う。
	3. 町有地の売却や貸付について	①現在、築上町の保有している町有地は何ヶ所あり、売却等が可能な町有地は何ヶ所あるのか。他に町有地で企業等に貸付できる土地はどのくらいあるのか。今後、町有地をどのように利用するのか。
池永 巖	1. 近々年収103万円の壁が178万円になることについて	①築上町としての税収入減は現状からどのくらい減になるのか。 ②その減収分の補填として国でも対策はあるかもしれないが、町としては何かその対策は考えているか。 ③町として現状の負債等の返済も当然厳しくなるだろうと思われるが、それについての考えは。
	2. 田舎の生活様式、風習等に関して	①コロナ後の生活様式（田舎の風習）の変化等が生じてきているのではないと思われるが、それについて思われることは。 ②昔からある田舎の風習は大なり小なり残していきたいと思うが、いかがか（例えば盆踊り、葬儀等）。 ③そのようにしていくためには町としての指導、補助、援助等できるようなことは考えられないか。
	3. 学校設備、遊具等について	①全国で、学校設備、遊具で子どもが負傷するという事案が発生しているが、これに関して我が町では調査等はどのように行われているのか。 ②生徒、子どもの保険等についてはどのような体制がとられているのか。

質問者	質問事項	質問の要旨
池永 巖	4. 基地に関する立ち退き跡地の樹木の現状について	①最近、防衛省関係の立ち退き跡地の樹木が成長し、道路横付近まで枝葉が茂っている。樹木の下枝を2～3メートル落とし見遠しをよくし、道横5メートルくらいは空き地にしてもらいたい。これは安全と防犯に関することでもあるが、いかがか。
	5. 図書館移転工事・自愛の家の改修工事等の進捗状況について	①各工事の進捗状況について問う。
今富 義昭	1. 新図書館の運営について	①幅広い利用者層が利用するための方策はあるのか。 ②利用者の交通手段は考えているのか。
	2. 新図書館周辺の開発構想について	①新図書館周辺を発展させるための構想はあるのか。
	3. 築城社会福祉センターの跡地利用について	①今後どうするのか、何か計画はあるのか。
	4. 地産地消について	①地産地消対策は行っているのか。

午前10時00分開議

○議長（塩田 文男君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は13名です。定足数に達していますので、本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1. 一般質問

○議長（塩田 文男君） 日程第1、一般質問です。

一般質問は10人の届出があり、本日の質問者は5人とします。

ここでお願いがあります。一般質問は通告制を取っておりますので、通告に従って質問するようお願いいたします。執行機関は、責任の持てる的確な答弁をお願いいたします。

発言される方は挙手をし、議長と呼んでください。議員の方は、答弁をする方の指名をしてください。なお、答弁を行う者は、所属と氏名を告げて発言をしてください。

質問する方は、前の質問席から行ってください。議場内のモニターに残り時間が表示されます。残り時間が5分になりましたら、ブザーでお知らせします。なお、残り時間が1分になりますと、場内の表示が秒数表示に変わります。

これより順番に発言を許します。では、1番目に、**2番、江本守議員**。

○議員（2番 江本 守君） 2番、厚生文教常任委員会、江本守です。では、通告に従って質問させていただきますが、私は過去6年間、こういう一般質問を一問一答という形でやってまいりましたけれども、どういう方法が自分にいいのかということで、今回は国会の代表質問等を見ておりますと、テレビを見る我々にとっては、一問に対して一答、総理とか担当大臣が答弁しておりますけれども、実際は、持ち時間の間、ずーっと質問事項を羅列して、結果、テレビの編集で一問一答っちゅう形になっておりますね。今回は、ちょっとそういうことで。

私は点字を触読しながらというのが、ちょうど寒い時期もあって、少し読むと、もう指がしびれてしまって、なかなか読みながらっちゅうのは難しいんで、もう、せいぜい読めてもテーマぐらいなので。

最初に、町の将来についてという大きなテーマの下に、12の質問を上げております。また、文章どおりにいかないと思いますけれども、内容は私が文章を作成しておりますので、大体網羅しておりますので。そのテーマに従って、全ての質問が終わった後から、担当課あるいは町長の答弁を求めたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、1番目のテーマで、町の将来について。

1番、愛知県の豊田市では、人工衛星とAIを使いまして、この豊田市のたった1人の職員が、もう一生懸命、執行部を説得いたしまして。今のまちの財政力からすると、特に水道事業のこと

ですが、上水道の維持管理あるいは漏水があった場合、本町においても数日前、無線放送で、「どことかの漏水があったんで、原因が特定できないんで、しばらくの間、水道を止めますので迷惑をかけます」という放送が流れていたように、大体のところは想像つくでしょうけれども、広く掘ってしまうという。

そういう結果で、結構安いようで高いコストがかかっているということで、この豊田市の1名の職員が、それをどういうふうにするが一番効率的にっていうことで、もうこれからは、まちの財政力というよりは、いわゆる民間の力と連携しながらでなければ維持管理は難しいという、そういうところに気づいて執行部を説得したという経緯の下に、1つの、種子島にある宇宙開発事業の中の小さなベンチャー企業が、衛星のデータとAIを利用した、そういう部分で活躍しているところであって、民間に公募したところ、1者しか集まらなかった。ほかの企業は、デメリットのほうが大きいというそういう見方であって、専門的なところが手を引いて、1つのベンチャー企業が名乗りを上げて、まずそういうことにすると。

AIを使って得たそのデータは100%、もう的確に見つけることが可能ということが分かり、迅速にその部分だけを掘って埋めるという、非常に時間も短く、コストも安いという、そういうことが全国に広がりまして、今現在、300を超える自治体から連携を申し込まれているということで、本来の事業よりも利益を上げているということで、かなりこれに力を入れているというお話を聞いております。

そういうことで、本町の水道あるいは建設課も関係するでしょうし、そういったところの連携を取って、年度末にまとめてあちこち掘るんじゃなくて、今度は担当課の関係するところが連携を、連絡を密に取り、横の連携を取りながら、もう本当に効率的な掘り返し措置をやっていくことができるんじゃないかと思って、こういう方法を。町長に、後ほど御答弁をお願いします。

それから、2番目の質問といたしましては、大分県の小さな企業が、平成6年の大地震において、学校の外壁の下敷きになって9歳の女の子が死亡したと、そして、自分の娘もちょうど同年の娘がおって、もし自分の娘だったらということで。本来この企業はブロックを作るという、そういう専門の業者でありましたけれども、いろんな長い年数をかけて、倒れない塀ができないものかということ、一生懸命研究した結果、プレキャストコンクリートの開発に成功したと。

これは、床掘りして立ち上げたところに、細かく切ったL型のコンクリートブロック、これを積み上げて塀を造ると、外からも穴が小さいためにそんなに中をのぞくこともできないし、かといって雨、風はそこを通っていくということで、まず震度7の地震にも耐えられるということで、この会社はさらなる発展を目指して、今、このプレキャストコンクリートを使って、自分の家を建てて12月に完成予定ということで、もうそろそろ完成している頃ではないかと思えます。

それで、事業発注を田川市の女性が社長を務めている小さな企業、歴史は長いんですけども、

ここに専門的なブロックを作るようお願いしているということで、今、いろんなところからアクセスがあり、実際、品物の製造が追いつかないというのが実態みたいですね。

それで、本町の学校をはじめ、いろんな施設、特に小中一貫校が令和9年4月に開校するんで、今、建物を残しながら建築して、最後に恐らく外壁等を扱うんじゃないかと思うんですが、その外壁を造るときに、ぜひともこういうコンクリート、多少はコストが高いかもしれんけれども、まず地震等、風災害に強いという、長い将来を考えたら、そう何年に一回ということで塀を造り替えるわけにはいかないんで、思い切ってそういったところに投入するというのも検討してはいかがということで、質問いたします。

3番目は、環境省は、P a y P a y ドーム福岡の屋根や外壁に、ペロブスカイトのシートを張りめぐって、2030年までにこの国の支援、事業の一環として作り始めるということで、これは完成すると、太陽電池を使って電力を蓄電すると、約8,400世帯分の電力ができるというようなお話を聞いております。

それで、もちろん、うちの学校関係施設も、このペロブスカイトは非常にコストが安い。ただし、10年に一度張り替えるという難点はあるけれども、今の蓄電池を産廃処理するためにすごい費用がかかるわけで、それを考えると、このシートを剥いで丸めて可燃物に出せるという大きなメリットと、一つ一つのコストも安いということで、思い切って、本町もこういうものを多く導入し、長い将来の周辺の電力の維持管理に運用してはどうかと思います。これについても答弁をお願いいたします。

4番目は……。

○議長（塩田 文男君） 福岡市の中学校。

○議員（2番 江本 守君） 福岡市の中学校において、今言う教員の負担をなくすということで、担任一人制ではなくチーム編成をし、複数の教員でこれを担うということで、非常に成果を上げており、全国から研修に見えているそうです。

本町の学校関係の教員の働き方改革については、どのような現在、状況なのか、あるいはこういう点についても検討しているのかということであれば、やはり、こういったところに勉強に行くというのも一つの方法ではないでしょうか。（「みやこ町」と呼ぶ者あり）

5番目は、みやこ町の下水道について。実は、民間のところに依頼をして、現在は人頭割ということで、うちの町と同じなんですけれども。これをいろんな研究をした結果、時代錯誤もいいたろうと、住民のアンケートの結果、9割を超えて、重量制にしてほしいと。

今住んでいる者、あるいは新たに入ってくる者のことを考えると、人頭割というのは本当に時代錯誤もいいたるところで、これはもう恐らく私、事前に担当課の課長とお話ししたところ、現在、今、検討しているところでありましてというお話も聞いているし、ぜひ、これを前向きに進めてい

ただきたいというふうに思っております。これもまとめて、後で答弁をお願いいたします。

○議長（塩田 文男君） 清掃センター。

○議員（2番 江本 守君） 次は、清掃センターについてですが、現在、RDFという固形燃料を生成して、実際はもう全く実用に向いていないということで、1億円を超える予算を使って処分しているというのが現実であります。こういう大きな財政難の時期にこういうことをするよりは、最初に設備投資するには多少やっぱり工夫が要るかもしれないし、あるいは、今言うダイオキシンの問題もあるんで、1,000度を超える熱処理が必要ということもあります。思い切ってここに財源を投資して、長い町の将来を考えると、その可燃する力を使って発電ということが可能なわけで。これは海外のほう、インドネシアやインドあたりで非常に停電が多いということで、普通の商社が、燃やして力で電力を発生し、やはり8,000世帯を超える電力が生まれているそうで、今、ほかの国からも依頼されているということでもあります。

それで、うちの町においても初期投資はかなり必要とは思いますが、これも、やはり前向きに検討してほしいというふうに考えておりますので、後で答弁をお願いいたします。

○議長（塩田 文男君） コミュニティバス。

○議員（2番 江本 守君） コミュニティバスについて、現在、空で走って、これも大きな費用をかけているわけで。それよりは、いろいろな山間部はありますけれども、デマンドの一部あるいは個人的な負担をしてでも、今、昔走っていた旧10線、BRTということで、JRが通らなかつたり、緊急的には平成鉄道でも、最近の豪雨でしばらくの間、こういう方法で途中をバスを使って動かしていたと。

BRTというよりは、私が言いたいのは、LRTという、いわゆるバス運行に絞ったことですが、昔やっぱり10線を走っていたわけで。うちの町だけやったら意味をなさないんですが、吉富、上毛から、せめて荻田ぐらいまでの間を、元の路線をバスを走らせる。

これは、埼玉県で実証実験をして、現在は15分に1台走っているんですが、新年度からは、もっと頻繁に走らせるように計画している。これはやっぱり先進的な事業ということで、国が支援金を100%出しております。ただし、毎年の維持管理については、各自治体の負担ということで、埼玉県だけでそれだけの本数を走らせて、約1億五、六千万円ぐらいかかっているんですが。

このくらいの額が仮にかかったとしても、荻田、行橋、そういった路線を利用する自治体から、人口の割合で負担金を絞って、ぜひ、うちの町から先導して、ほかの自治体に声をかけ、これが実施できるように、うちの町のまちづくり振興課の課長にはお骨折りをかけるけれども、住民のために、やはり、ぜひともやってほしいと。

くっつけて言わせていただければ、うちの町に住んでいればこそ分かることなんですね、職員

が。これも以前からも職員に、「よその町からじゃなくて、うちの町に住むべきやないか。ふるさと納税すればいいという問題ではない」と。実際に住まんと、その町の住民の気持ちは分からない。だから、帰ってくるようにということで、最近は町長の話を知ると、かなりの方が帰ってくるという計画をしているというふうには伺っておりますので、ぜひともそういう方面も含めて、職員の方には努力してほしい。

無難なことをやっていけばいいというのは分からんでもないんですけども、無難なことだけに頭を使うんでは、もう本当に将来が怖いものがあります。ぜひとも、こういうことも含めて努力してください。

次は……。

○議長（塩田 文男君） 大型スーパー。

○議員（2番 江本 守君） 大分。大分県の……。 （「大型スーパー」と呼ぶ者あり）大型スーパーの進出がほぼほぼ決まっているということが言えるのではないかと。これは、町にとってはメリットしかない。デメリットは、もう全く考えられないというようなことで、この事業が実際に、大型スーパーが進出、実現できれば、正規雇用が140名生まれるんですよ。だから、新卒の子どもさんたちが、よその町に勤めを探して行くというそういうことにならずに、地元に残る、あるいはよそから来てくれるということですね。そういうことにつながるわけで。

実際、この大型スーパーの誘致は、私たちの同僚議員が全面的な信頼を受けて、この方が実際に誘致に努力してくれたと私は聞いております。ぜひともこの辺も含めて、後ほど町長のコメントを求めます。

次、何やったっけ。

○議長（塩田 文男君） サン・コーポ。

○議員（2番 江本 守君） 町の公営賃貸住宅でサン・コーポというのがあります。ところが、2棟建っているうちの1棟に絞っていえば、4つの階段があり、1つの階段で4階まで2軒、8軒が住めるわけですが。これを、まず昔の雇用促進住宅のときの規則要綱が生かされているので、勤めていなくても、もちろん家賃を退納しない、支払う能力があるという審査は必要でありますけれども、ここの規則要綱を町独自のものに変更してほしいということが望みであります。そうすれば山間部で、次の11番になるんかね、それにも相当するわけですがけれども。

山間部で、老朽化して、もう住めないと。しかし、年齢的にも、金銭的にも、修理、建替えは不可能であり、どうせ住むなら、やはり住みやすい、便利のいい町に行くだろうという実態があります。

そんな中で、町の賃貸住宅というよりは、公営の住宅が、まず窓口を広げるということは大事なことはないかと思えます。そういうことにより、そういう山間部に住むお年寄りたちが、高

齢者が住みよい、本当に町になるのではないかというふうに感じます。

また、そういうところを求めて移住してきてくれるという。このうちの各自治体の大きな課題は、やっぱり人口減少というそういう問題を抱えておりますので、何とかそういう道も努力してほしいなというふうに思います。

最後やったね……。

○議長（塩田 文男君） いや、違う。山口県、次。

○議員（2番 江本 守君） 山口県の宇部市にある中村建設っていう建設会社なんですけど、ここが昔から。ここも同じです。町の人口の割に非常に面積が広くて、大多数が山間部ということで、自然災害、特に豪雨で砂防ダムが行き届いていないところの土砂が崩れるという、そこに応急的にビニールシート、ブルーシートをとめて応急処置。応急処置というよりは、「ここが危険ですよ」ということを皆さんに知らせるという意味では、ブルーシートでも役をしておりますけれども。この建設会社は長年それで苦しんで、どうにかならんものかということ。

この社長が骨折して、今、ギブスをするということを経験したときに、それをヒントに、いろんな工夫を考えて、最初のうちは、固まる石膏みたいなコンクリートを間に入れたシートを張ったけれども、偏りができてなかなかうまくいかない。よくよく考えると、そのギブスのシートを剥ぐと、中が網状になったやつと三重構造になって、表と裏と間に網目状に編んだシートがあり、そこにコンクリートの粉をずーっとまんべんなく振って、それをとじて、そのシートを四隅をくい止める。

それが自然の雨を待ってもよし、放水してもいいんですが、すぐに固まり始めるということで、その固まったシートが、約10年間、土留めの役をするということで、今、建設会社、あるいは、いろんな自治体のほうから発注があり、もう、それが主な仕事になってしまったっていうぐらい、非常に求められているシートで。その代わり、コストが、ビニールシートは1,000円前後でしようけれども、1枚が4万8,000円するんです。

ところが、いろんなことを考えると、砂防ができるまでっていうのはもう、予算化されるまでに相当の年数がかかってしまう。だから、こういったところも、建設課あるいは産業課、関係する担当課があると思いますので、その答弁と、また最後に、町長のお話も求めます。

○議長（塩田 文男君） 次、お米。最後、お米。

○議員（2番 江本 守君） お米のことなんですが、今もう物価高騰で、筑前町のほうが、もう恐らく配り終えているんだと思いますけれども。農協を通じて、非常に今、米が高止まりになって、5キロが3,000円ぐらいするわけですが。このお米券を、住民が1万7,000かな、筑前町が。この1万7,000の世帯、全世帯に1人に対して3,000円のお米券。もちろん、お米券を作るのはシステムがあるんで、簡単に、今できると思います。

うちの町はもちろんそこまでの財力ない。約1億数千万円の予算を組んでいるんで、恐らく相前から計画があって、国の支援も若干あるでしょうし、県の支援、それにプラスして地元の財源を使って、この配布が始まっていると思います。

本町においても、やはり非常に、社会福祉協議会を通じて生活困窮者が生活費をお借りするという、現実には回収、難しいんでしょうけれども、そういう件数が数百件生じているわけで。せめて、うちの財力からすると、非課税世帯に、1世帯っていうふうに考えると、約三千件ぐらいの、聞くところ、非課税世帯が本町にあるみたいなんです。この非課税世帯に、1世帯でいいんで、お米券ではなく、お米を買う3,000円を、国の支援、給付金が決まっている流れもありますけれども、それに加えて、「3,000円のお米を買ってください」という名目でプラスして、給付してほしいというふうに願いますが。この辺も町長に答弁をお願いします。

最終的に、町長はもう自分の引退を決めておりますけれども、自分が引退した後の町長に期待するしかないんでしょうか。

私の質問は、これをもって終わります。

○議長（塩田 文男君） ちょっと止めて。ちょっと事前に聞いていなかったんで、あれです。

これ、順番に1からずっと回答を求めるといいですか。江本議員。

○議員（2番 江本 守君） そうです。

○議長（塩田 文男君） 順番に、1番からずーっと。

○議員（2番 江本 守君） はい。

○議長（塩田 文男君） それを求めた後にまた答弁するで、覚えられますか。大丈夫ですか。一個一個……。

○議員（2番 江本 守君） 大丈夫です。

○議長（塩田 文男君） それでは、スタート。それでは、1番から行きたいと思います。1番からお願いします。新川町長。

○町長（新川 久三君） 後、基本的には、担当課が答えるところも多々ありますけれども、私からは、ちょっと答えられるところだけ答えておきます。

まず1番の、愛知県豊田市の例で、「水道のDX～人工衛生と水道管の健康診断」という、そういう形で質問要旨がありました。そして今、質問の中で、道路とか、それから水道関係を一緒に協議をしながら事業を行ったらどうかという中身もございましたけれども。

水道の効率化ということで、非常に私の町の水道事業規模は小そうございます。だから、いろんな形で効率化は求めていかなければならないが、しかし、この効率化のために、このDX化とかいう形になれば経費が非常にかかるという形になりますし、あと、これが規模に合った形での効率化という形でやっていきたいと、このように考えているところでございます。

それとあと、他課との連絡ということで、必要なときは連絡調整しながらやっておりますが、どうしても水道管、下水管を増設しなければいけないという形のほうが、道路の改良よりも多くなってきておるところでございますし、基本的には下水を入れるときには、いろんな水道事業プラス水道管を入れたりという形で地域の皆さんの意向を尋ねながら、「ぜひ水道管も欲しい」というところについては、本管を入れていっておるというのが現状でございます。

また、道路の改良時、道路を掘るという形のところがあれば、必要があれば、水道管、下水管の敷設替えが必要であれば、またそれはそれでやっていくと。そういうことで、答弁をしておきます。

次に、大分市で企業が、地震のときにプレキャストコンクリートの開発という形で使用どうかという形でございますけれども。本町では、学校関係では大阪の地震があったときに、子ども、児童がコンクリート壁の下敷きになって亡くなったという例がございます。そういう形の中で、学校関係のコンクリートブロック、レンガブロック等々の分については全て金網のフェンスに、もう現在、替えてしまっております。

そういう形の中で今後、非常に町の施設、コンクリートブロック塀、レンガブロック塀というのは、もうほとんど設置していないで、全部フェンスが多いようでございますので。もしあれば、そういう形ではいろんな、そういう安全なものに替えていこうということで、このプレキャストコンクリートも一つのいい例ではないかなと思っておるので、参考にしたいと思っております。

それからあと……。

○議長（塩田 文男君） これ、町長が全部答えるん。12まで全部、町長が行くの。（発言する者あり）

○町長（新川 久三君） 答えられるところは、僕が答えるので。あと補足してもらおうと思う。それでいいですね。

それからあと、ペロブスカイト太陽電池ということで、これの設置については、これもう、今、だんだん日本、技術化が進んできて、実用化の段階になろうかという状況になってきつつあります。

そういう形の中で、先ほど江本議員がおっしゃったように、P a y P a y ドーム福岡でも全部屋根に設置をしながらやっていこうという計画も聞いておるところでございます。

本町でも、できれば中学校の関係で使えるか、使えないかという形で、業者には話はしておるんで、あと担当課のほうからまた、これ、回答してもらいたいと思います。

次に、学校の関係は、これはもう教育長のほうにお願いしたいと思います。

5番目の下水道の人頭割から従量割への変更と。これ、この前、江本議員、私がもう替わった後にもう一回しようという話でございましたが、また出てきましたけれど。

この分については非常に、これ、宗議員からも質問が出ております。総額は変わらないけれども、これを人頭割、それから現在の人数割から変えた場合には、たくさん負担しなければならない人とか、それが変わって、徴収金全額は変わらないんで、どうしたもんだろうかという、この前もそういう答弁をしておるんで。

基本的には、現状の料金対象を維持したいが、水道課のほうも今後、みやこ町等々の話も聞きながら、もし、アンケートを取って、住民の皆さんが、利用者の皆さんがそれでいいという形になれば、そういう方向性に持っていってもやぶさかではないかなと思っておるところでございます。

それからあと、清掃センターのRDFの関係でございますけれども。これも非常に、当初は出たRDFを有償で買ってもらうという話だったんですが、これが逆に現在では、こっちが処理料を払って、セメント会社に処理料を払わなければ処理ができないと、そういう逆の現象になっておるところでございます。

この処理料も年間3,000万円近くかかっていると、また、ダイオキシンがたくさん入っておる場合は、これで、またセメントの原料にできないというふうなことで、これをほかの場所まで持って行って、高い金を払った処理料にしなければならないというようなことで。

何とかこれも、だから、そういう矛盾を解消しようということで、発電をして、そして、そこで灰の処理を何とか町独自にやってみられないかということで、担当課には指示をしているけれど、なかなかやっぱいい方法が見つからないという状況でございます。基本的にはダイオキシン問題が、一番これがネックになっておるといふふうには。

それで、発電というのは、もう四六時中、燃料を燃やし続けなければいけないという形になれば、材料的にはちょっと不足するとか、そういう出力を落とせば、規模を小さくすればいいんでしようけれども、なかなかそこまでの形で検討ができていないというのが現状でございます。

基本的には、場内でできたものは場内で処理するという方針が一番大事なものではないかと思っておりますけれども、まだ、今後、非常にこれは課題というふうなことで考えておるところでございます。

それから、バス高速輸送システムということでBRTという形になりますけど、これはやっぱり広域的にあるという形になれば、県それから広域圏。しかし、今は広域圏がもう基本的には解散して、広域行政というのは今、中津と定住自立圏の協定をしながら、ここはバスは走らせておりますけれども。豊前市までは来ておりますけれども、中津市が料金を取りながらですね。

しかし、私どもは、もう中津に行くのはJRで行くから、別にもうバスは要らないよという形でお断りをしているというのが現状でございます。できれば、行橋方面に行くバスについては、今、太陽交通さんがルミエールの発着でゆめタウン、ずっと行橋経由のバスが今、1つあると、

こういう状況でございます。

広域でやるという形になれば、やっぱり県の強力な指導が私は必要だろうと。県のほうが交通体制を築いていただくという形にならないと、なかなか町単独、それから、この近隣の京築地区の市町村で合同でという形には、なり得ないんじゃないかなと思って。というのが、平成筑豊鉄道も非常に経営的に苦慮をしていると、こういう状況でございますので、ここのところも県が何とかしようとしているけど、なかなかうまくいっていないというのが現状でございます。

あと、基本的には私も、町内の交通機関を皆さんが円滑にできるような形という形になれば、今後やっぱりライドシェアの問題を、各地でライドシェアを行っておりますんで。これをもうちょっとライドシェアを、基本的には運送事業者以外の者がやれるような形になれば導入して、ある程度そういう取組を行っていったほうがいい。そうすることによって、必要時に必要な移動ができるという形になれば、先ほど言ったコミュニティバスは時間的に運行が決まっておりますんで、なかなか乗車人員も少ない便もございますし、そこのところを何とかできればいいかなと思っておるところでございます。

それからあと、スーパーの進出の件でございますけれども。これはもう私にとっても非常に歓迎するところでございますし、いろんなところで、今、図書館建設中のところのすぐ近くに大型スーパー進出というふうな話で、協議を店側と行っておりますが。こういうものを起爆剤にして、旧築城支所あたりを一つの住宅のモデル的なものにつくっていきたくい。そうすることは、南別府団地を早くやっぱり、基本的には住宅、もしくは、いろんな形で活性化できるような南別府団地に持っていきたくいなど、このように考えておるところでございます。

あと、サン・コーポの関係でございますけれど、これは雇用促進事業団そのままの管理規定を受け継いでいるものではございませんが、エレベーターの設置ということで、これもエレベーター全ての階段ごとにつけていかなければいけないということで、非常に多額な金がかかるということでございますので、基本的には7基エレベーターを設置しなければいけないと。階段が7か所あるんで。

そういう形で非常に難しいあたり、そうすればまた、エレベーターをつければ料金の値上げもせざるを得ないかなと、このように考えておるところでございます。そこのところは、皆さんと協議しながらどうするかという形でやっていかざるを得ないと考えておるところでございます。

それから、「山間部の空き家老朽化に伴い個人住宅では改築が難しい部分があるため、町が支援できないか」。いや、基本的には、危険家屋については当然、町としては、解体の補助金を解体費の3分の2もしくは50万円を限度として補助するようにはしておりますが、基本的には、個人の住宅は個人でちゃんと管理をしていただくというのが原則でございますんで、危険な住宅だけは、町が対応していこうということで、現在、そういう制度をつくっておるところでございます。

す。

それから、山間地の住宅でも空き家バンクに登録したところについては、条件が借り主、買い主と整ったときには、限度額を定めて、改築費100万円、2分の1以内というようなことでそういう補助金もつくって、空き家バンクを利用して売買それから貸付けをする場合は、このような、制度もつくっておるところでございます。

それからあと、マツトの関係ですけど、これはもう建設課のほうから答えさせます。

そして、あと、米の高止まりで、筑前町、5キロ無料配布で1億2,000万円支出したと。財源としては、何か、ふるさと応援寄附金というのをつくって、寄附があったということで、したというふうに伺っております。

本町では、米をするよりもプレミアム商品券の発行と。そうすれば、町民が自分の買いたい物を買えるというようなことで、プレミアム商品券で対応していく。そしてまた、非課税世帯については、これはもう国の制度でございますけれども、1世帯3万円で、扶養家族が、子どもの扶養があるところは扶養者1人2万円を追加すると。このような形で、現在、国のほうからも交付金が来るという予定でございますので、この計画で現在、事業をやろうということで進めておるところでございます。

以上で、米の配布だけは、ちょっと私はできないというふうなことで、のみについてはできないという形で考えておりますので。

あとは、それぞれ担当課のほうから補足を答弁してもらいます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 江本議員。

○議員（2番 江本 守君） 町長、私が投げかけた質問のとおりには答えていない。一番最後の米の件についても、米に換わるプレミアム商品券、製造に金がかかるやないですか。製造。給付するにしても、そう。そうじゃなくて私は、それに代わる、何でも買える現金が一番何でも買えるんですよ。だから、米に換わるお金についてどうかと。

それから最後、町長やはり、「次の町長に全てを期待するしかないんか」っちゅう質問を投げたけど、この返事をしていない。まず、その返事から聞こう。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 私がやろうとしても、もう限度的なものもありましょうし、次の町長に期待をしていただければいいかなと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 江本議員。

○議員（2番 江本 守君） それだけじゃない。全てが質問と違う答弁をされている。

例えば、サン・コーポについても、私、「7か所ある階段に全部つけれ」と一言も言っていないよ。私は「1棟に対して1台」だから2棟あるけ、2基設置すれば間に合うだけで、全てがそうしなさいということやないんですよ。高齢者、障がい者あるいは妊娠されている方、そういった方がちゅうちょなくその住宅に入ることができるということで、「7基設置」とか一言も言っていないのに、何でそういう答弁をするんかね。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 基本的には、雇用促進事業団は非常に難しいと。だから、そういう方々が入るには、町営住宅はエレベーターが設置したところがあるので、そこにお世話をしたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 江本議員、まだ答えていない。

○議員（2番 江本 守君） 今、答えている。

○議長（塩田 文男君） いやいや、この4番とか答えていないのがあるけ、まだ、それ先に聞かんでいい。

○議員（2番 江本 守君） 4番。

○議長（塩田 文男君） 学校。中学校。

○議員（2番 江本 守君） 中学校のことは。

○議長（塩田 文男君） いいですか。先。後でいい、後でしょうか。先、江本さん、じゃあ行く。

○議員（2番 江本 守君） いやいや。だから、質問、今のが答えなんでしょう。結局、次の町長に期待するしかないということもお返事いただいたんで、それでいいとせないかんけれども。質問していることと違うことを余分に言っている。これはほかの議員にも影響するんじゃないかと思うし。

それから、町長の考え方そのものは統一されているようにあるんで。じゃあ、今言う学校関係のことで、教育長ですかね。

○議長（塩田 文男君） 久保教育長。

○教育長（久保ひろみ君） 教育委員会教育長の久保でございます。江本議員御質問の件でございますが、教員の働き方改革についてですが、本町では令和3年に小中学校における働き方改革に係る指針を策定し、教員の働き方改革に努めているところでございます。

具体的には、スクールソーシャルワーカーそれからスクールカウンセラー等の専門スタッフを配置することにより、教員の生徒指導面の負担軽減を図ること。そして、公務支援システムを導入することにより、校内業務の効率化を図ること。そして、そのことによりまして、教員の早期退校を促すこと。また、学校の学校閉庁日ですけれども、これを設定しまして、長期休業中の夏

休みに4日間、冬休みに1日の学校閉庁日を設定し、休暇の取得促進に努めているところでございます。

御質問のチーム担任制でございますが、本町の中学校では、担任以外に各学年に1から2名の教員が、各学年の担当として配置しております。小学校では、一部の小学校ではございますけれども、各学年、担任以外に副担任を配置するなど、複数で教育活動を行っているという学校もございます。

教員が児童生徒にしっかりと向き合い、教育活動に取り組めるよう、教育委員会といたしましても教員の働き方改革を推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 江本議員……。 （発言する者あり） ちょっと待つて。神崎建設課長。

○建設課長（神崎 秀一君） 建設課、神崎でございます。先ほどの回答で11番がまだだったと思いますので、11番について建設課から回答させていただきます。

山口県宇部市の中村建設が開発したドライマットについてですが、この製品は、ポリエステル製の立体の網状構造体（ウエーブネット）に特殊セメントモルタルを含ませ、透水性のある上層シートと遮水性の高い下層シートで挟んだ厚さ5ミリの製品で、法面の浸食防止等に活用されている製品です。国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）にも登録されております。

NETISからの情報では、この製品の適用可能範囲としては、構造的に安定した法面であること。盛土法面の場合、勾配が1対1.5程度より緩く、平滑な整形法面であること。切土法面の場合、勾配が1対1.0程度より緩く、平滑な整形法面であることとなっております。

また、経済性についてですが、100平米当たりの金額が108万9,275円。従来工法のモルタル吹きつけ工では69万300円となっており、新技术のため、まだ製品単価が高いようでございます。

砂防ダムの事業は県主体で行われること、また、山間部では急斜面が多いため、適用範囲からは外れる可能性が高いこと、また、経済比較の面でも従来工法のほうが安価であるため、今のところ使用する予定はありませんが、記事によりますと、2021年に販売を開始し、現在は生産ラインをフル稼働し、ラインの増強も進めているとのことであり、今後、価格がかなり下がり適用できる範囲の場所があれば、比較検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 樽本教育施設整備室長。

○教育施設整備室長（樽本 知也君） 教育施設整備室、樽本でございます。3番のペロブスカイトについて、若干補足をさせていただきます。

現在、当室で行っております、椎田地区の小中学校地域コミュニティー一体型校建設事業につき

ましては、現在、実施設計を行っております。そして、小規模ではございますが、屋上階に太陽電池の設置が計画されております。

先ほども町長からもございましたが、今後の実用化の時期等にもよりますが、設計協議の中でペロブスカイト太陽電池の導入については、協議、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 江本議員、いいですか。江本議員。

○議員（2番 江本 守君） このペロブスカイトについては、もう以前から私は言っているんで。これ、既に勉強に行くっていうことで申込みをしておりますが、全国から非常に希望者が多いということで、また、肝腎な開発がストップしているという実態もありまして、新年度に喜んで受け入れてくれるということを聞いておりますので、そういう時期が来たら、しっかりと勉強に行ってまいります。

それから、今の樽本室長のお話を聞いて、そういうことになります。外壁は、やっぱりフェンスっていう形になるんでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 樽本教育施設整備室長。

○教育施設整備室長（樽本 知也君） 教育施設整備室、樽本でございます。外壁についてですが、全てではないですが、一部、校門の周りあたりは、フェンスではなくブロック等、二次製品。まだどういった詳細になるかは決まっておりますが、そういったところも使うと考えております。

もしも、そういった形で使う場所がございましたら、そうしたところも設計段階で検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 江本議員。

○議員（2番 江本 守君） ただいまの室長のお話の中にありました、その正門の付近は、ちょっとブロックでと言うけど、ブロックを使うぐらいなら、今言うプレキャストコンクリートっていうか、大分県が開発したそれを使ってくれば、よりいいんじゃないでしょうか。地震等という形があっても大丈夫というお墨つきでありますので、できれば、長いことを考えればそれにしてほしいなど。

それから、教育長の答弁の中で、少人数化したけ、小中一貫校という形になるんで。今のお話の中で、実際に働いている教員の中で、十分休養が取れていないというような声を聞くことはありませんか。以前は、やっぱり長期の病気で入退院を繰り返すっていう事実も私、何人か知っておりますが。そういうことも含めてということと。

それから、先ほど言った福岡の例というのは、城南中学のことなんですよ。城南中学はマンモス校で、中学校だけで700人の生徒を抱えている。こういう大きな規模での学校の中の働き

方改革で、チーム担当制っていうものが導入されて、今、非常にいい結果が出ているっていうことで、全国から勉強に来ているっていうお話を聞いたんで。うちの町には必要ないのかもしれないけれども、勉強しに行くぐらいはあってもいいんじゃないかなと思いますけれども、いかがですか。

○議長（塩田 文男君） 久保教育長。

○教育長（久保ひろみ君） 教育委員会の久保でございます。御質問の件でございますが、先生方のこの働き方改革については、やはり、本来の先生の仕事である、児童生徒と向き合うということが一番と考えております。

先生方の声は日常的に、やっぱり校長先生を通して聞いております。できるだけ休暇が取れるように、そして、継続して長時間働かないようにというようなところを今、取り組んでいるところです。

御提案の福岡市の先進的な事例についても、今後、勉強させてもらいながら、本町に採用できるところは積極的に取り入れていきたいと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 江本議員。

○議員（2番 江本 守君） ありがとうございます。どうも。ああ、1時間かかった……。

○議長（塩田 文男君） あと5分、あと5分ある。大丈夫ですよ。

○議員（2番 江本 守君） はい。次回からもこういう形になろうかと思っておりますけれども、よろしく願いいたします。

○議長（塩田 文男君） 終わりますか。

○議員（2番 江本 守君） 終わります。

○議長（塩田 文男君） ここで一旦休憩いたします。再開は11時10分からとします。

午前10時58分休憩

午前11時10分再開

○議長（塩田 文男君） それでは再開します。

2番目に、6番、田村紘貴議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 議席番号6番、田村です。通告に基づいて質問させていただきます。よろしく申し上げます。

まず、早速1つ目ですけど、公用車についてということで。

こちらについては、結論から言うと、公用車が多いんじゃないのかなっていう疑問を持ってし

まいりました。もし削減、少しでもできるなら、してみてもどうかっていうところで。でも、もちろん業務の中で必要なものではあると思いますし、日によっては、時間帯とかもそうですけど、たくさん使う日もあれば、逆に使わない日ももちろんあると思いますし、その辺はよく分かるんですけど。

今回、その中でも一番言いたいのは、白の軽バンっていうんですかね、4人か5人ぐらい乗れるやつなんですけど、資料を見てみると、恐らく全部で、今、60台か61台ぐらいあると思うんですけど。その中には軽トラも数台含まれているんですけど、でも、もし削減できるなら、経費節減っていうところにも、もちろんつながると思いますし、住民の方からお預かりしている、この貴重な税金っていうのを、しっかりと無駄なく使ってほしいなっていう思いもありますので。

この公用車についてですけど、適切な台数と考えているのかどうか、まず御答弁、お願いいたします。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。今、田村議員さんおっしゃられましたように、公用車の台数について御報告させていただきます。

消防団等に配置をしております消防車を除きまして、今、企画財政課管財係のほうで把握している公用車につきましては、今、議員さんおっしゃられた白い箱バンといいますか、箱の公用車や、軽トラック等が約51台。それと、特定の用途の目的を持った町長車、議長車、スクールバス等、各出先機関で作業用として使用しています車両が46台で、計97台、今、ございます。令和6年度の当初です。今年度1台廃車をいたしましたので、今現在は96台が公用車として配置をしております。

多いのか少ないのかということであれば、公用車の台数は今、多いと考えておりますので、この削減をするために、昨年の10月に公用車の利用の適正化に向けた計画というのを作成をしております。今後、公用車については2割を削減していこうということで、今、計画しているところでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） これから2割ぐらいの車両削減を考えているということで。そもそも今のこの台数になっている、96台でしたか、になっているこの台数は、どういうふうに関められていったのか、誰が決めたのかっていうか、そこが気になるんですけど。どういう決め方で、今の台数っていうふうになっているんですかね。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。先ほども私、申し上げました、

作業車と言われる部分、町長車、議長車、各出作機関で使っている作業、町民バスやスクールバスを除きました、白い、共用で使っている51台についてだけ、ちょっと答弁させていただきたいと思うんですけれども。台数につきましては、どういう決め方をということではなくて、合併した当時の旧椎田町、旧築城町の車両をそのまま、各課のほうで専用で、今、使っているというところで、古くなった車両については、随時削除をしていって、今現在51台っていうことになっております。

この削除の方針といたしましては、その51台の分につきましては、削除をやっていこうということで、各課に今、ヒアリングを昨年度行いまして、51台のうち33台につきましては、現場の多い建設課、産業課、上下水道課等の現場の多いところにつきましては、各課のほうに、もう配置をしております、その分以外につきましては、企画財政課管財係のほうで共有車両ということで、ほかの各課のほうに使用してもらおうということで、今、取組を行っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 分かりました。

2割削減と先ほどおっしゃっていましたが、具体的に、いつをめどに、その2割削減をしようと考えているのでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。令和10年度までに2割を削減する予定で、今、計画をしております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） ありがとうございます。

1点気になるのが、分かれば大丈夫ですが、1台当たりの、今かかっている維持管理費等、全体でも構いませんし、1台当たりでもかまいません。教えてください。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。法定点検と車検を合わせまして、1台当たり10万円程度はかかっていると思います。燃料費等は、今、把握をしておりませんが、車両にかかる、そういった保険代も含めまして、10万円程度はかかっていると思います。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） ありがとうございます。

1台当たり10万円ということで、これが削減できれば、相当な経費削減になると思うんですけど。その削減をするに当たって、いろんな考え方というか、どうすれば2割をしっかりと削減できるかっていうところも大切だと思うんですけど。

モビリティ・パスポートっていう車両管理アプリっていうのがあるんですけど、自分も調べていて、これいいなと思ったんですけど。実際にこれを活用している自治体もありますし、相当な効果を上げられている。稼働率もそうですし、適正な台数っていうものがしっかりと分かる。いろんなデータに基づいて。これは参考程度ですけど、少しでもそういう経費削減というところを図って、貴重な税金というものをしっかりと使ってほしいなと思いますし。

その中で、削減したお金でできることとして、次の質問になるんですけど、EV化について検討してみてはということで。

その削減したお金で、もちろんできないことはないと思いますし、恐らくゼロカーボンシティというのを、令和4年10月に宣言していると思いますので、全部が全部とは厳しいとは思いますが、しっかりと形として示していくためにも、EV化についてしっかりと導入していくべきではないかと思うんですけど、その辺の考えはどうでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。今、田村議員さん、御指摘がありましたように、EV化に向けては、先ほど私が申し上げました、昨年10月に策定いたしました公用車の利用適正化に向けた計画の中において、公用車の新規の導入、更新に当たっての考え方を明記しております。

まず、公用車を新規に導入または更新する際は、議員さん今おっしゃられましたように、築上町地球温暖化対策実行計画における温室効果ガス削減の目標達成に向けた、いわゆるゼロカーボンに向けた重点的な町としての取組でありますので、それに基づいて電気自動車等を導入するというのを、まず1点目に挙げております。

次に、2点目に、導入する公用車の車種については、使用用途や頻度、航続距離や電気自動車用の充電設備の設置可否などを総合的に勘案して選定をするようにしております。

ただし、今、職員が出張に使っています公用車や町長車、議長車につきましては、航続距離というのが、長く走る出張等がございますので、そういった分については、EV車はちょっと難しいのかなということで、環境性能の高い自動車を優先して導入しようということで計画しております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 導入していくということを、前向きにというか考えているという

ことで、全体としてどれぐらいの割合に、そのEV化を考えているのか。全部が全部は、ちょっと厳しいと思うんですけど、何割程度はEV化にしていこうかなってというような考えはあるんでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。計画の中には、何割程度というふうな計画はございません。全てEVにしてしまうと、停電等が起こった場合に充電等ができないという可能性もありますので、今後、まずは古い車両から廃車をしていき、廃車をする中で、故障等が発生して廃車をせざるを得ないような場合につきましては、EV化を進めていこうということで考えております。

公用車用のEVの充電器につきましては、JR側の車庫のほうの入り口のところに設置をしておりますので、それを利活用していきたいと考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 充電器があると思うんですけど、稼働率じゃないですけど、多分、あちらの反対側の駐車場にも1台あると思うんですけど。その2台の稼働率というか、どれぐらいの頻度で使われているのか、もし、分かればその辺もお願いいたします。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。まず、国道10号線側の充電器につきましては、住民の方以外、民間の方が使われているのではなかろうかなと思うんですけども、どれだけ使われているものかっていうのは、私どもは、把握はしておりません。年間数十万円の利用率ということで、カードを購入された分の一部の費用が雑入として入っておいております。

反対側のJR側に設置をしておりますEVの関係なんですけれども、今のところ、公用車用にEVの設置をしております。だから、カード対応とか料金を取るという形じゃなくて、大本のスイッチを入れてしまえば誰でも使えるような形になっておりますので、今のところあれは電源は切っております、今後、EVを公用車に導入した際に使うということで考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） せっかくあるので、もっと効率的に使えるようにその辺をしっかりと進めていってほしいなと思います。

仮にこのEV車両を取り入れるとなると、ちょっと分からないんですけども、国だったり県からの補助とかあるんですか。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。今、箱バンのEVにつきましては、通常のガソリン車の2倍ぐらいの値段を、一度見積りを取ったことがあるんですけども、2倍ぐらいの金額がするのかなと思っております。

補助につきましては、経済産業省の外郭団体のほうで一部、全額ではないんですけども、一部補助があるというふうに私どもも今のところ調べております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） そういう補助もあるということで、せっかくなんで、まずは1台からでも構いませんし、しっかりと導入に向けて進めていってほしいなと思います。本当にゼロカーボンシティというのを宣言している以上は、最初も言いましたけど、しっかりと町としても示していく必要があると思いますし、迅速に、このEV化については検討していってほしいなと思います。

では次、2番目に、企業誘致についてということで質問させていただきます。

昨年度に、恐らく自分はこの企業誘致について質問をさせていただいたんですけど、同じような内容にはなるかもしれないんですけど。この町には高速道路も通っていますし、そういう物流機能というのをしっかりと生かした中で、企業誘致をしてはどうかというところを、たしか言ったと思うんですけど。

その中で、この町の企業誘致に対する制度ももちろんそうですし、町のよさっていうのをしっかりと伝えていきながら、企業誘致に努めていく必要があると思うんですけど、現状のこの企業誘致に対しての、町の取組をお聞きしたいと思います。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。昨年も田村議員のほうから企業誘致の関係について質疑があったと、私も認識しております。

町の今の企業誘致の状況ですけども、先ほど言われた、町のほうでは、今、交付金のほうを用意してまして、対応といたしましては、インセンティブの提供、個別相談、企業適地の候補地の検討というところを今、行っております。しかしながら、今、企業適地のほうがそこまでも定まっていない状態です。

今後、検討しているのは、経産省の地域未来投資の関係であったり、福岡県の産業団地整備促進事業というのがあります。こちらのほうを来年以降検討して、来年以降取組ができればと思っております。

この福岡県の事業を用いて、スクリーニング調査、図面上ですけども、町の適地はどこかと

いうところも含めて、先ほど言った、その物流も含めて、どの辺が、どの地帯がというところで、全域をスクリーニングをかけて調査をしていきたいと思っております。

この先にあるものは、やはり地方自治ということもありますので、まちづくりをするにしても自主財源というのは必要になってきます。大きな自主財源を確保するというのは、やはり税收、企業誘致というのは効果的だと思っておりますし、今後、移住・定住の問題もあります。移住・定住の問題につきましても、教育問題、教育の環境整備であったり、いろんな施策と併せて、この企業誘致もあれば、柱が幾つかずっとそろってきます。この柱がそろおうと、今後、移住・定住の選定の一つになるかと思っておりますので、この企業誘致につきましても、産業課といたしましても、大きな課題、大きな取組として取組を進めていきたいと思っております。

これの基づくものについては、今、総合計画がございます。第2次築上町総合計画の中、基本目標5の中でも、企業誘致というところを明確化しておりますので、これに基づいて、産業課でも取組をして、その先5年、10年後を見据えた取組として、地方自治を守っていくということで、繰り返しになりますけれども、自主財源の確保を目的に、企業誘致のほうを取組をしていきたいと思っております。

併せて、今、築上町企業誘致推進委員会というのがございます。こちらの中でも、回数はさほど開催をしていない状況ですけれども、今後については、適宜、こちらの委員会も活用して、皆さんの意見を聞きながら開催をして、企業誘致の推進を図っていきたいと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） ありがとうございます。産業課が中心となってやっているということで、具体的になんですけれども、どういう営業活動っていうんですかね。どういう町のよさだったり特徴だったりっていうのを伝えようっていうところ、もう少し、その辺はどのような形で活動しているのか、もう少し詳しく言えるようであればお願いします。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。具体的な町の今、取組ということですので。今現在、具体的な企業訪問であったり、ホームページのほうに大きく載せるというところは現在できておりません。私が今、説明した内容につきましては、今後、次年度以降、取組として、今現在でも取組を進めておりますけれども、事業化に向けては、次年度以降、また目に見える形で実際に行動ができる形で取組をしたいと思っております。

本来であれば、リーフレットの作成であったり、先ほど議員が言われた、築上町の特徴がある築上町の物流であったり、高速道路、インフラの関係につきましても、PRをする要素は多分にあると思います。かなり多いと思いますので、そちらを今まで有効的に活用できていないという

ところも、今、反省としては思っておりますので、今後そういった築上町の強みを、今後、形として出していきたいと思っております。

ホームページとリーフレット、本当に企業戦略として企業の中に行って、築上町をPR、個別訪問するなり、そういったところは必要だと思っておりますので。今現在、取組ということは大きくは、やっていないですけど、今後、取組をしていきたいということで、産業課の答弁したいと思います。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 分かりました。本当にいろんなお仕事がある中で大変だと思うんですけど、しっかりとこの辺についても力を加えていただきたいなと思います。

1個気になるのが、この1年間でも構いませんし、ここ数年で、例えば企業からのアプローチというか、この町に企業進出をしたいんだというような問合せだったりはあるのか、その辺はどうでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。先ほどの田村議員の企業からのアプローチですけども、今現在、数件あります。今どれだけ進んでいるかというところ、まだ問合せであったり、今、大きくは、基本的には県のほうから問合せ。これは、その統一ですけども、各自治体にこういった情報提供、こういった企業がというところで情報提供があります。個別案件としても、「築上町で企業適地ありますか」、それから始まりまして、築上町で交付金の要項であったり、制度であったり、そういったところの問合せがあつて、その先の段階では、個別で最終的に企業誘致までは発展するかどうかはちょっと分かりませんが、個別案件として、数件、問合せに対しては個別対応をしているところです。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 数件、そのアプローチがあつたということで、個別のほうもあるということで、それはどうなんですかね。まだ話の途中なのか、それとも話はあつたけど、最終的には断念するような形になっているのか。その辺はどうですかね。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 企業からのアプローチについてですけども、アプローチの段階で、条件が合わないで話が終わったケースもあります。それと併せて、それとは別に、今、進捗というか進んでいる案件もあります。ただ、そちらについても、実際には、じゃあ、買収であったり、その場所の選定、確定というところまでは至っておりませんので。過去には、アプローチがあつ

て話が合わなかった件、そして、今、進んでいる件。ただし、そちらについては、最終的なその候補を確定とか、そういったところの中身については、まだそこまでいっていない状況です。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） その何件か断念するところもあったということで、もし、言える範囲で構いませんけど、この断念に至ったその理由としては、企業としては、どういう理由だから断念をするっていうようになったんですか。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。断念する理由、企業がアプローチをした後に難しいというところの判断っていうのは、やはり、その場所の問題。

そして、これ一番、農用地の関係もございます。企業としては、かなり大きな面積を問合せの中にもございます。本町においては、ほとんどの区域が農用地、そして、農業振興地域に指定しておりますので、そちらのほうの解除であったり、今すぐに適地として提供できる土地がないということ、これが一番の断られるというか、話が進まない理由となっております。

併せて、公有の遊休地、こちらのほうも今、点在をしておりますので、そちらのほうも併せてアプローチがあった段階では、例えば、学校跡地であったり、ある程度、確保ができる公有地のほうは、説明というかお知らせをしているんですけど、そちらのほうでも、まだ今のところ話が進んでいない状況です。

いずれにしても、土地がないというところが一番のネックになっておりますので、そちらのほうを適宜、この計画の中で、企業適地をどこに指定していくかというのは、今後、必要だと思っておりますので。

一番最初に繰り返しになりますけれども、福岡県の産業団地の整備事業を用いて、できるのであれば調査に入って、適地のほうを選定していければと。こちらのほうは、もう確定ではないですけど、そういったことも必要になってくるという認識を持っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 分かりました。ありがとうございます。

遊休公有地や町有地があると今、おっしゃっていましたが。前回は課長の答弁の中で、これは、たしか言っていたと思うんですけど、この公有地だったり町有地は今、分かればで構いませんけど、面積としてはどれくらいあるのかをすごく気になりますし。また、町としては、そういった土地も含めてなんですけど、どんな企業が適していると考えていますか。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。すみません。今の遊休の公有地につきましては、今現在、その面積のほうを手元に持っておりませんので、今のところ答弁はできることはないんですけれども。

今後、企業として望むべき企業につきましては、いろいろな種別があると思います。製造業であったり、小売業、そしていろんな、今、SDGsの関係であったり、バイオマスであったり、いろんな職種があると思います。そちらについても、適宜、築上町、本町に産業課として、どの企業が来てもらって雇用につながる、雇用と、あと自主財源の確保ですね。そちらのほうを考えつつやっていきたいと思っております。

今のところ町としては、大きくどの企業に選定をして、これ、1つの企業以上、この職種以外は受け入れませんということでありませんで、できるだけ多く。周りの影響が、周りの幸福度が、住民の幸福度合いが上がるのが一番の目的だと思っておりますので、こちらのほうを、来る企業については、適宜対応していきたいと思っております。職種のほうは今、決めてはおりません。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今、広さちゅわんやった。（発言する者あり）適地の広さがどれだけあるかちゅわんかった。（発言する者あり）分からん。町長、何かないですか。今までやってきてないことやろ、これ。何も。

○町長（新川 久三君） 課長もまだ発表できないところもあると思いますけど、基本的にはやっぱり、広範囲の土地が欲しいという要望が大分出てきております。というのが、5ヘクタール、10ヘクタール欲しい。多いところは20ヘクタール欲しいというような形で、なかなかやっぱり適地がないというのが現状。

しかし、時間がかかれば、3年あれば、これもう農振の解除、それからあと、開発協議が県と必要になります。そしてあと、農地の転用は、これはもう、農振が解ければ大体、転用は可能に、すぐなると思う。

この開発協議と農振で非常に時間を要するということで、3年後にちゃんと着手するんであればということで、向こう側の希望地と、ここは文化財があったり、非常に難しいよという、文化財があれば、またこれ時間がかかりますんで。本町では、なかなかやっぱり、昔から文化財調査をすれば出てくるという地域でございますんで。あと、教育委員会の文化財の担当の部署と協議しながらやっていくという形になります。これがまた時間がかかりますので。極力すぐにとという形になれば、山手のほうも、これもやっぱり開発協議が必要になってきまして、工事にやっぱり時間が相当かかります。山手のほうであれば。だから、やっぱり農地のところが欲しいという要望が非常に多く出てきて。

この関係で、基本的には、今まで話をして、まだまとまっていないけれども、データセンター。それからあとバイオの関係で、発電をしたいんで、高压線の近くというふうなところを要望してきておると。それからあと、倉庫業。倉庫を。

こういう形で、もうちょっと雇用のたくさんできるような製造業が来てもらえればいいような状況ですけど、今のところはデータセンターにしてもそんなに雇用は見込めない。発電は、まあまあ若干は見込めるかも分かりませんが。倉庫もほとんど雇用というのが見込めないという形になるんで、できれば製造業という形で。こっちのほうもまだ。

豊前市のほうは台湾との交流をしながら、そういう、アタックをしておるようでございますけれども、まだ本決まりではございませんけれども。

非常にそういう意味で、この前、私も福岡のほうに台湾の領事館じゃございませんけど、公設の事務所がございしますが、そこにいろいろ挨拶に行ったりはしておりますし。そういう形で、少しずつでも台湾のIT企業を、これをできれば誘致したいかなと思って、挨拶には行ってきたいと、そういう形でやってきておるところでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） ありがとうございます。

町長の答弁を聞く中で、ちょっと思い出したというか、前回、自分がその企業誘致の件について聞いたときに、最後、恐らく、「企業誘致はお金がかかるので、県だったり国に協力的な働きかけをしていきたい」とおっしゃっていたんですけど、その働きかけ、具体的にどんなことをこの約1年間でやってきたのか、お願いします。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 県のほうには、「県の団地をぜひ一緒に、町と一緒に造ってもらえんか」という要望はしてきておるけど、なかなかやっぱり非常にネックがあります。県の方針としては、もう県の企業団地は造らないという方針もあるようでございますので。何とか、服部知事、ここに、京築の浮揚という形で、目をかけていただいておりますんで。

それと、大分県の県境の、昔、福岡県のチベットと言われたこの京築地方でございますんで、とにかくそれを何とか浮揚しようということで、服部知事も力を入れてくれておるとい状況の中で、ぜひ、そういうのを一つ実現したいかなと思っているところでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 分かりました。

じゃあ、最後に、いろいろこの企業誘致についてお話を聞いてきたんですけど、この企業誘致

がもたらす効果は本当にすごいものがあると思いますし、まだ実際にできていないことは、しっかりと進めていただきたいなと思うんですけど。

町としては、この企業誘致に対するこの位置づけとしては、どれぐらいの優先順位として考えているのか。もう絶対に、ここ1年、2年でやってやろうというようなマストの状態で考えているのか。それとも、長期的に数年後までにはできればいいかなってというような考え方でいるのか。その辺の考えを、もう少し詳しくお願いいたします。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 企業誘致、非常にやっぱり難しい条件が整わないと、来てもらえないという状況もございますので、その条件整備をやっぱりいかにしてやるかという問題がある。一概に企業誘致、企業誘致と言っても、なかなか非常にやっぱり難しいから。やはり、「うちの町はこういう形で今、まちづくりを行っています」と。子育てもいろんな状況がございますし、それから、学校の整備の問題とかいうような形で、いろんな全ての条件が、ある程度、企業が来るには必要だと私は思っております。

その、やっぱりちゃんとした基礎づくりをやっていかなければ、なかなか一概には企業は来てもらえないという状況になりまして、そここのところを、やっぱり基礎づくりをちゃんとやるべきだろうと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） 分かりました。引き続き、しっかり計画、また戦略を立てた中で、企業側がしっかりと進出しやすい環境整備に努めていってほしいなと思いますし、雇用の創出であったりだとか税収ももちろんそうですし、地域経済への波及効果が見込まれるような企業誘致というものを期待していますので、しっかりと頑張ってくださいなと思います。

では、最後の3番目の質問に移りたいと思います。町政についてということで。

年度で見るとあと3か月あるので、ちょっとあれなんですけど、年末も近いということなので、この2024年をどう振り返っているのかってということで、これは町長に最後、御答弁していただこうかなと思いますので、この約1年間を振り返っての感想をお願いします。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 2024年を振り返って、どう評価するかという、町長に問うという質問でございます。

一概に言えば2024年、私はやっぱり、国への要望がある程度通ってきたかなと。今までずっと運動してきたのが、ようやく実になったのが高速道路の4車線化。これについては、2月18日に着工式を迎えることができたということでございます。

それからもう一つ、国道10号線と椎田勝山線の湊の交差点がございしますが、ここが交差点改良という形で、上下合計で約900メートルぐらいですか、4車線にしてもらえると、そして流れをよくするというので、豊前方面から来た車は全て、常時、左折が可にすると。そうすることによって渋滞がなくなるというふうなことで、大分要望してまいりました。これだけではなく、全線4車線化という形で、ずっと要望しておりますけど、局部的ではございますけれども、これが、2024年に予算化されたということで、現在、調査事業を行っておるということで、それが済めば、設計等が行われて、用地交渉あたりやっていくということで、一応、事業化ができた。

あともう一点は、非常に防衛省に長く要望してきておりました、告示日以降ということで、平成4年の10月28日以降に建てた家は、今までコンター内で防音の対象になっていなかったということでございますけれども。これを何とか全国的な運動の中で、全ての基地をやっ払いこうというふうなことで、今、防衛省が要綱づくりに着手して。多分、来年度からコンターの、もう一回、その代わりちょっと残念なのは、コンターを見直しするという形になって、昔、設定したコンターがそのままになっておるということで、音が少し軽減されてきたというようなことで、コンターの見直しをしながら、平成4年以降に建築された住宅についても防音にしていこうと、こういう、今、要綱づくりが行われていることで。これも、私ども勉強会の中で、はっきり国のほうがしてきたという形になりまして。

ただし、防音の区域は狭められるというのが、ちょっと難点でございますけど、この経過措置もでございます。まだ防音はされていない家とか、それから、器具が（ ）になったとかいう形の皆さんについては1年間、これも告示をもう一回するという形になるんで。それまでに家が建った分については防音になるであろうというふうな要綱づくりがなされておるというのを、国のほうからニュースで入ってきておるという形になりまして、近い将来そういう、告示日以降が、防音でない家も防音ができるという形になってくるということでございます。

それからあと、子育てでは非常に、子育て関係では新しい施策を大分、おむつの提供なんか宅配するというようなこととか、いろんな形で子育て関係、障がい児保育事業補助金を創設したとか、それから、外国籍や手話の必要な妊産婦さんが安心して相談できるような相談業務も始めたという形になります。

それからまた、住民の利便性という形の中では、パスポートの発給を役場のほうでできるように今年からしたというようなことも、これも、ちょっと私が評価できるんじゃないかなと思っておるところでございます。

それからあと、濃縮液肥ですか。これが大体、特許がもう頂けそうな状況になってきたということで、これも今後やっぱり、町の一つの、液肥を作って売っていくという町の収入減の一つになるような形で頑張っていきたいかなと思っておるところでございます。

それとあと、産業振興の中で農業団体が、県、国から表彰を受けたという形になって、これは
麦作で今津の営農組合、今津の里が全国表彰の一番最優秀を頂いたということ。それから、船迫
の緑の里の営農集団。これは大豆の生産で、県で非常に優秀な成績を修めたということで表彰を
受けた。これも産業振興をしながら、皆さんが頑張ってきているということで、町民の皆さんの
頑張りを評価できるんじゃないかなと思うところでございます。

それとあと、各種スポーツで、子どもさんが主体にいろんな形で、バドミントンを頑張ったり、
それからソフトボールを頑張ったりということで、大人の部でもソフトボール、築城のインター
フローレンスが西日本大会で準優勝したということで、これも町民の皆さんが頑張っているなど。
こういう形で、私は評価できておるといふ形になりまして。

あと県のほうからも、さっき、産業という形の中で、来年の話になりますけれど、新嘗祭とい
うのが五穀献上する、粟と米を献上する儀式を、築上町に来年の分を頂いておるといふことで、
現在、準備中でございます。そして、献上するところも、関係団体の皆さんに協議をしてもらい
まして、今津の里が受け持とういふ形で準備を進めておるところでございます。

いろんな形で評価できるものがあるということで、私なりに評価したのは、以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） ありがとうございます。本当に町のよさがたくさんあるなど、今、
聞いていて思ったんですけど。

よく町長が「縮充」といふのを言うんですけど、その「縮充」といふものを裏づけるような
ことはやっぱり、しっかりとできていると思うんですけど。

その中で、最後なんですけど、今後、重点的に取り組むべきことは何だと考えているのかって
いふところを聞いて終わろうと思うんですけど。

いろんな考え方もあると思いますし、いろんな意見だったり声がある中でやっていく中で、例
えば、予算を来年どういふふうに配分していくかっていふところももちろん気になりますし、ど
の分野にしっかりとフォーカスしていくのかっていふところで。

自分としては本当いろいろあるんですけど、例えば人口減少っていふのがやっぱり深刻な問題
だと思うので、その辺もそうですし。子育てなんかに関してもたくさん、今、やっているんです
けど、もっと僕はできると思いますし、この町で子どもを産みたいとか、子育てをしたいとか、
2人目、3人目をもっと産めるような選択ができるようなところも、もっとできることはあるの
かなと思いますし。

また、税金なんかもそうですし、物価高騰による中で、いろんな方の生活はいろいろとしんど
い状況にあると思うんですけど。その中で、しっかりと手元に残るお金だったり可処分所得をど
う確保していくのかっていふところも、町として、少しでももっと考えていくべきなのかなと思

います。

でも、もっと本来は国を挙げて、もっとやっていくべきなんですけど。何か一つ一つの決断も遅いというか、僕はあんまり期待していないので。でも、そういう中で、この町としての力が問われていると思いますし。今言ったのは自分の意見というか考えなので、これが正解とか間違いとか何も思っていないんですけど。

その中で、新川町長として、今後どの分野に、しっかりと重点的に取り組んでいくのか。その考えを最後に聞いて終わろうかなと思います。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 予算の配分というか、これは非常にやっぱり、急激な変化は非常に難しい状況でございます。だからやっぱり、現状は維持しながら、少しずつ改善していくといたしますか、新たなものについては、これは十分議論しながら、新しい制度をつくっていこうというふうにご考えておるところでございます。

基本的には、私が考えておるのは、築上町、いろんな形で、基本的なものをちゃんと決めていこうじゃないかと私は思っておるところでございます。そのためには、ある一定の条例化をしながら、議員の皆さんに相談しながら、条例化をしていこうという気持ちがあるわけです。「未来永劫、築上町はこのことを守っていくんだ」というふうな形を、議員の皆さんと相談しながらやっていきたいなど。これは、そして、行くべき方針を条例で示してやっていきたいと、このように考えておるところでございます。

今後、やっぱり充填するという形になれば、子育てをやったり、学校の教育水準を上げて、やはり住民の皆さんが幸せに住めるようなまちづくりをやっていかなければいかんだろうということで。とにかく少子化対策、これを十分力を入れながら、今やっているけれど、なかなかやっぱり、実になるのは10年、20年後しか出ないという前例も出ておるし。これはこれで頑張りながら、とにかく頑張って少子化対策をやっていくという、これがやっぱり少子高齢化の対策の中で、一番大事ではないかと思っておるところでございます。

そのためにも、やっぱり、先ほど申しましたように、学校の教育環境をよりいいものにしていくということが、私は大事じゃなかろうかなと思っておるところでございます。

あとは、大人の社会教育面、こういうのもやっぱり、ある程度、皆さんがゆとりを持ちながら、趣味に、いろんな形で社会教育の中で勉強しながら、それと、皆さんのコミュニティーをつくっていくというのも大事でございますので、そういうものを大事にしていきたいなど、このように考えておるところでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 田村議員。

○議員（6番 田村 紘貴君） ありがとうございます。

いろいろとやることはあると思うんですけど、しっかり進めてほしいですし、私も議員視察とかで、いろんな気になる町とかに行ったりするんですけど、本当にいろんな取組を見る中で、差をととても感じますし、本当に悔しいなと思うんですけど。

だからといって、何もしていないわけではないと思いますので、今やっていることであったり、いろんなことにもっと疑問を持った中で、皆さんでしっかりといいまちづくりに努めていただきたいなというふうに思っております。

では、以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（塩田 文男君） お疲れさまでした。

.....

○議長（塩田 文男君） それでは、ここで一旦休憩いたします。再開は13時からとします。

午前11時56分休憩

.....

午後1時00分再開

○議長（塩田 文男君） それでは、午前に引き続き会議を再開したいと思います。

次に入る前に、執行部職員の皆さんにお願いがあります。議員の質問に対しては、できる限り簡潔に、的確に答弁をお願いします。長々と質問するのではなく、質問に対し、できる限りの確かな答弁をお願いしますという意見が出ましたので、お願いいたします。

それでは、3番目に、**13番、吉元健人議員**。

○議員（13番 吉元 健人君） 13番、吉元健人です。通告どおり質問したいと思います。今回、私、質問内容が3つ。1番目から進めさせていただきます。

まず、1つ目の質問事項が、選挙のときの投票済証明書の発行についてということなんですけれども、さきの衆議院選と選挙のときに期日前、当日選挙に行かれた方の証明書等の発行は町のほうでやられているのか、確認をお願いします。

○議長（塩田 文男君） 椎野総務課長。

○総務課長（椎野 満博君） 総務課、椎野でございます。私が築上町選挙管理委員会の事務局長を兼務しておりますので、私のほうから回答させていただきます。

投票済証明書につきましては、各選挙の投票の際に、希望者に対して発行しております。投票の終了した希望者から申出を受けた際に、投票管理者が氏名を記載し、投票済証明書の交付を行っております。また、期日前投票におきましても、同様の手順で投票済証明書の交付を行っております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 答弁ありがとうございます。確認していたところなんですけども、これ、なぜ僕、今回一般質問の一番最初にしたかということ、やっぱり選挙の今、投票率等すごく下がっている部分で、いろんな自治体、いろんな取組をやっていまして、もう一つ確認で、その証明書を使った地方でいろいろ取組が行われている選挙割等は御存じでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 椎野総務課長。

○総務課長（椎野 満博君） 総務課、椎野でございます。選挙投票割につきましては、各店舗等でされているようなことは聞いております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 安心しました。それを踏まえての話になりますけども、今回一番近かった町で関連ある選挙とすれば、この間開催された衆議院選挙なんですけども、そのときは国選の選挙なので、国全体で選挙が行われて、いろんな地方で選挙割という催しというか、サービスが企業によって行われていました。抜粋すると、イオンさんとか、その辺では5%ポイントをつけるとか、飲食店でファーストドリンクがただであるとか、選挙に関わる、集客として店舗が使っている内容もあるし、選挙に興味を持ってもらうという取組でもあるみたいでやっているみたいです。

そこを踏まえて、では我が町で一番重要な選挙といえば、最近でいえば1年ちょっと前にあった、僕たちが、僕も新人で今回初めてその選挙で町議としてやらせていただいたんですけれども、町議会選、あと再来年になりますけど町長選の大きく2つがあると思うんですけれども、今、自分の手元で資料として選挙の内容をちょっと調べてみると、町議会選に至っては、2007年7月、11年、15年、19年、23年、7月の日にちはずれますけれども、7月に行われています。町長選も2006年、10年、14年、18年、22年、4年ごとに行われているんですけれども、投票率のほうが、町議会選に至っては2007年のときは81%、すごく高い数値でしたが、年々4%から7%減っていき、昨年7月23日の選挙では55.82%、有権者数は1万4,000人に対して8,000人ほどの方しか選挙に行っていないという状況です。この状況も踏まえ、やっぱり若者ばかり、いろんな方々が選挙離れしているというのが数字に見て取れると思います。

今回、一般質問で投票済証明書についての発行等を言わせていただきたかったのは、町民の方たちの政治に対する関心、その辺が何か、僕たち議員もしかりですけども、町のほうでも取組として何かいい方法に向けていくことができないかということで、投票済証明書のことにちょっと触れてみました。というのも、自治体によっては、その町のキャラクターを使った証明書を出し

て、それを欲しさに、趣旨は違ってきますけれども、足を運ぶ内容をつくるための証明書として使っている自治体もありますし、さっき冒頭でちょっと触れた選挙割等をやるのは、お金とかは町が補填するわけではないけど、町側がその商工会とかその辺に周知を促して、そういう利用目的をさせるような働きかけをやっている自治体も今回多く見られたと思います。番組等でも結構報道されていまして、皆さん結構それで知っているのかなとは思いますが、そういった取組について、我が町ではお考えは今あるのかないのかお聞きしたいです。

○議長（塩田 文男君） 椎野総務課長。

○総務課長（椎野 満博君） 総務課、椎野でございます。選挙管理委員会としまして、投票率の向上については、検討は、対策はいろいろ考えているところでございます。

御指摘の投票済証のキャラクター等につきましても、選挙管理委員会で、議会でそういう意見があったことをお伝えしまして、選挙管理委員会の中で検討させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） ぜひ前向きな検討をよろしくお願ひしたいことと、やっぱりこの築上町の議会等は、最初から僕もそうやって発信させてもらっていますけど、ユーチューブ等で皆さん確認できる、すごいいい議会だとは思っているんですけども、まだまだ、議会に対して町民の方が理解を持って、興味を持ってもらえる場になればなと思ひ、投票率を上げることを優先的に考えるのは大事だなと思ひますし、前向きに考えていただけるということなので、この1番目の内容は以上で終わりにしたいと思ひます。

続きまして、2番目は、築上町新図書館「築きのもり」についてということで、来年、令和7年11月にオープンに向けて今工事が行われていると思ひますが、前回もお聞きしましたが、進捗状況を先にお願ひします。

○議長（塩田 文男君） 樽本教育施設整備室長。

○教育施設整備室長（樽本 知也君） 教育施設整備室、樽本でございます。工事の進捗状況につきましては、11月の末現在で7.6%となっております。おおむね計画のとおりでございます。現在、内部の解体工事と外部ルーバー、あとカフェエリアの基礎工事を終えたところでございます。

なお、工事の進捗等の写真につきましては、随時、町のホームページの特設サイトに掲載しているところでございます。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 丁寧に数字までありがとうございます。

あともう一点、前回、前々回だったか、外壁の壁が落ちたということで、確認工事等のその辺の内容はどうなっているか教えてもらえますか。

○議長（塩田 文男君） 樽本教育施設整備室長。

○教育施設整備室長（樽本 知也君） 教育施設整備室、樽本でございます。たしか、前回の全員協議会のときに報告させていただいたと思うんですけども、あその後、レーザーによる外壁調査、あと手が届くところは打設の調査を今現在行っているところでございます。先週の報告を受けた限りでは、約100か所、今のところそういった空洞が確認できたということで、この後、まだ足場を組んで調査しなくちゃいけない箇所もございますので、今のところ100か所程度のそういった不適箇所があるという形で報告を受けております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 100か所ぐらいの不適箇所があるということで、工事のほうは順調に、進捗が7.6%ということですけども、そんなに時期がないと思うので、今から外壁云々、その辺の問題もオープンに向けてやっぱり係ってくる工事が出てくると思うので、その辺も踏まえてオープン予定に間に合うようにやっていただくようにお願いします。

さっき、カフェの今基礎工事が行われているということでしたけども、カフェの公募状況などというのを、ちょっと前に一般質問の内容を提出しなければいけなかったので、させてもらったんですけども、12月5日ぐらいのホームページのほうに、ロースターズラボさんという、多分行橋かどこかの店舗をされている方ですかね、そこに決まったというのがホームページに載っていましたので、公募の状況などは大丈夫ですけども、その辺の2社ぐらいの募集があり、ロースターズラボさんになったという内容的な部分と、今後、やはり入ってくれて一生懸命やってもらえると思うんですけども、継続させるために、町の取組としたり、町民への呼びかけ等、どういうふうにお考えなのかお聞きしたいです。よろしくをお願いします。

○議長（塩田 文男君） 尾座本生涯学習課長。

○生涯学習課長（尾座本三雄君） 生涯学習課、尾座本でございます。ただいま御質問のございましたカフェの状況ですけども、まずカフェにつきましては、10月4日から11月11日の間、町のホームページ等で築上町図書館カフェ出展者を公募したところでございます。そのときに2社からの応募がありまして、その後、書類及び面接をいたしまして、選考を行いまして、最終的に、今、議員さんがおっしゃられた業者、店舗名ですけども、に決まったという状況になっております。

また、今後の展開につきましては、面接のときにも少しお話があったんですけども、築上町の図書館のほうのイベント等には積極的に参加したい意向のほうを確認しております。

また、メニューの開発や商品化に向けても、築上町の特産品を活用した、築上町でしか味わえないとか、そういったメニューの開発も積極的に協力していただけるというような意向は確認しております。

また、今後の展開ということになりますけれども、まずは特産品に関しては、産業課とも連携しながら、特産品の食材の紹介や生産者への紹介とか、あとは祭り、築上町のイベント、主に図書館が関係するイベント等での連携とかコラボとか、そういったところで御協力はいただけるのではないかとこのように考えております。

また、そういった築上町の特産品の商品の開発がしていただければ、そういったところでは、またふるさと納税の商品のメニューにも加えていただける道もできるのではないかとこのように考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 細かい説明ありがとうございます。本当、築上町独自の商品、飲食できるものを開発して、そこで使うというのは、物すごくいいことだと思いますし、ただ、築上町でここはという、自信を持って推せるところで、町長もよく言われていますけども、やっぱり自校給食、給食を自分のところの学校で作って、子どもたちに安心安全に提供できるという給食を提供できる場所としても使うのは、僕はいいんじゃないかなと思っていて、ほかの議員の方もちょっと言っていた内容なんですけれども、例えば今から小中一貫校が始まって、給食室は大分まとまると思います。今まで各小学校にあったものが全部まとまって一つにもなるし、築城地区でいえば、残るようにはなりましたけども、上城井地区、下城井地区、築城小学校ももちろん、築城中学校、今後の分離型の小中一貫校として、どういう食材を使い、どういう子どもたちに食育というものをやっているかというのを、外に出す発信の場所にもなり得る場所じゃないかと思いますが、なかなか運搬ルート等、その確保は難しいと思いますが、他市町村では給食センターで作った給食を学校に持ち込むという内容が行われているので、逆にそういうカフェで、築上町の売り文句として自校給食の本当のおいしさを一般の大人にも向けて発信するのはいかなものかと思いますが、そういう提案等はなかなか難しいのですか。

○議長（塩田 文男君） 大きい声で。尾座本生涯学習課長。

○生涯学習課長（尾座本三雄君） 生涯学習課、尾座本でございます。まず、メニューの開発につきましては、入られる業者様との調整にはなろうかと思います。こちらとしては、こういったものを使っていただければということで、御相談のほうは多分できるかとは思いますが、最終的には、販売するメニュー等はそこに入る業者様のほうが決められるということなので、そこに関しては、今の段階では少しお答えできないところがございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 多分、できなければできないと向こうは言うと思うんですけども、あくまでもこちらの提案としてする分は別に構わないと思っていて、あくまでも選択肢をこっちから共有していくというのは、今後絶対に大事なことになると思うんですよね。では、向こうが思って発言しない限りは、それが叶わないのであれば、なかなか難しいと思うんです。逆にこういう、町長が昨日の人権のときでも大きい声で、うちは給食というふうに胸を張って言われている、やっぱり築上町の売りのものが給食なんですから、それをいろんな場で提供できたり、感じられる場所をつくっていくというのは、町としては絶対プラスだと思うんですけど、そこをなぜ、提案するぐらいはいいと思うのに、今のところは考えていないんです。もうそこで終わってしまうなら、あまり話し合う必要がないと思うんですけど、それはどうですか。

○議長（塩田 文男君） 久保教育長。

○教育長（久保ひろみ君） 教育委員会教育長の久保でございます。吉元議員の今の御質問の件でございますけれども、課長のほうも申しましたように、築上町の特産、いろんなものを紹介していくという中で、やはり今の本町での取組の給食については、特色あるおいしい給食が提供できておりますので、こういうほうについては、素材の提供と同様に、今の取組のよさというもの、メニューとレシピ等も含めて御提案をしていただいて、その中で御検討いただくというふうに考えておるところでございます。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） ありがとうございます。その前向きな姿勢で、僕たちもそういう提案ができて、やっぱりやり取りをやっていくような、最初からできないと言われたら、提案する意味もなくなってくるので、前向きに検討してもらって、する側の多分意見だと思うんです。そのいろんな用途、多用があれば、最初から僕、カフェについては賛成なんですけれども、賛成の上で、やっぱりそんなに商売が簡単じゃないと思うので、前でいえば、ジョイフルさんからも断られたという内容もやっぱりありますので、その辺やっってもらう方にずっとやっていただけるような形をやっぱり町側としても、もちろん僕たちも、議員も協力して、できるだけ趣旨が合うように協力できればなと思います。ということで、図書館の不安要素というか、聞いてみたかったことは終わりにします。

3番目、最後になりますが、町有地の売却、貸付けについてと質問事項を挙げました。

ちょっと細かく質問しようと思います。現在、築上町で保有している町所有は何か所くらいあって、現実、そこ、面積的な部分が分かればお願いします。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。箇所数というか、何筆かということに関しては、今現在、把握ができておりません。面積にいたしますと、9月の定例会のときに提案いたしました決算の財産に関する調書というのがございます。その中で言いますと、土地の面積は、町が所有している分は341万平米でございます。そのうち、学校や庁舎、公民館等で行政財産と呼ばれているものが150万平米、残りの行政財産以外というのが普通財産ということになりますので、普通財産が191万平米でございます。ただし、その341万平米のうち、約200万平米が山林となっております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） すみません、平米で言っていただいて、僕もよく分からない、だからなんですけど、ちょっと数字の確認をしたかった部分で、学校等の土地が150万平米、普通の残り191万平米で、普通が191万平米で、山林が200万平米ある。別に200万平米あるということですか。（発言する者あり）そうですね。お願いします。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） すみません、ちょっと御説明不足で申し訳ございません。全体で341万平米で、行政財産が150万平米、普通財産と呼ばれている行政財産以外の分が191万平米あるんですけど、191万平米のうち、普通財産と呼ばれている分の山林が182万平米でございます。行政財産の山林が24万平米でございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。この内容を聞きたいの、ここ。売却と貸付け。

○議員（13番 吉元 健人君） そうですね。

○議長（塩田 文男君） 財産ではなくて、売却できる土地と貸付けができる土地がどれだけあるか。

○議員（13番 吉元 健人君） そこは後で聞きます。

○議長（塩田 文男君） 後ね、そうなのね、了解。

○議員（13番 吉元 健人君） 今から。すみません。

○議長（塩田 文男君） 失礼しました。吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） ありがとうございます。議長も課長もすみません、まどろっこしく。時間が結構あったので、ゆっくり聞こうかなと思って。今の内容でいうと、学校等に使っている土地が150万平米あって、通常の土地とするものが190万平米あるけど、山が180万平米ほどあって、普通の土地がもう9万平米しかないよという単純なことですよ。分かりました。

それを踏まえ、よく子育て世代を引きつける、住まわせるために土地をどうか、先ほど田村議員もおっしゃっていましたが、企業誘致の土地がどうだとか、いろんな内容を言う以前の部分で、多分なかなか難しい。さっきの田村議員の中だったかあれなんですけど、せっかく企業誘致の話があったにもかかわらず、土地がなく、流れたという内容が多分1個、2個少なくともあったと思うんですよね、今まで。その改善策として、では今この通常の土地が9万平米ある中で、分筆されて箇所箇所分かれて、築上町の中で9万平米ということなんで、多分すごいばらばらで、イメージ的にはちょこっとずつ、全く使えない土地ももちろんあるとは思いますが、質問の内容の中の後ろのほうから先に聞きます。町有地で企業等に貸付けできる土地は、実際問題、今どのぐらいあるんですか。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。主な大きな土地といいますと、旧小山田小学校の土地が5,570平米ございます。今、産業課のほうで、旧城井中学校のほうはテクノスマイルさんのほうに貸出しを行っております、大きな1,000平米以上、1筆を超えるような土地でいえば、今思い当たるのは旧小山田小学校かなということでございます。

なお、今、企業さんとか自治会さんのほうに14か所ほど貸付けを行っております、年間約440万円財産収入を得ております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） ありがとうございます。14か所ほど今、貸付けして、440万円ぐらいの収支があるということなんですけども、先ほど田村議員も言っていましたけれども、なかなか企業に誘致を促したとしても、実際にはない土地を今から、町長も言われていました、農振除外して、改良して、県に申請出して、やっぱり2年、3年かかるよと。

近場でいうと上毛町で、県道225号線で野地塔田線の日本プラストの前に、企業誘致用の土地を多分もう七、八年前ぐらいに造っていて、昨年11月の24日に中津の株式会社嶋屋さんという建設会社の用地になったところがあって、そこもやっぱり企業誘致用の誘致できる土地を上毛町町長がそこに企業誘致をする、ではそこに来る企業は決まっているのか、決まっていない、でも必ず用地さえ用意しとけば、少なからず持ってくる材料にはなるので造るといって、平米数は資料的になかったのでもちょっと分からないんですけど、大型の企業誘致に成功した例が近場でもあります。

上毛町と築上町を比べて、やっぱり高速も通っていますし、物流の、先ほど田村議員も言われていたけども、物流等、今からすごくよくなっていくと思います。4車線化も、先ほど町長も言われていたけど、落成式も終わって、近々4斜線に東九州もなり、物流は関係ないかも

しれないですけども、人の流れとしても、北九州空港も24時間空港になりますし、インバウンド、その他いろんな人の流れが今までとは違ってくるのかなと思います。ただ、今さっきから話をずっと、僕も企業誘致とか、後々ちょっと別で答弁を求めますけど、若い子たちに町有地売却等はできないかというのはずっと言ってきていますが、なかなか前に進めていない現状だと思っています。いろんな町長、絞りだして、県に国にいろんな問合せをもちろんしているとは思いますが、なかなかこの決まらない部分で時はどんどんたっていくし、いろんな条件がそろっていく中、事前準備ができない、取り残されるおそれもあるんじゃないかなとは思いますが、その辺どうお考えですか。町長、よければお答え願えますか。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 住宅用地をやっぱり早く私は売却したいと。特に、築城中学の横の、前に住宅がございましたけれども、そこは住宅用地で売るということで造成して、区分けまでしておるので、それが、中学校が。（発言する者あり）企業誘致はなかなかやっぱり難しい状況が今のところあるということで、大体接触はするんですけど、向こうの企業はこの辺が欲しいとかいう形で来るけど、先ほど田村議員のときにお話ししましたが、まだ本格的な交渉にはいっていないし、第1候補地、第2候補地というのは決めてきておるので、ではもう一回帰って検討してくださいと。第1候補は僕が、ここは文化財があるので非常に長くかかるよということで、そこまで話はして、そこでいいという形になれば、また地元と話をしていく形になろうと思いますけれど、企業がどこがいいという形が選定されて、そしてまた、先ほど言った農振とか、それから開発協議、3ヘクタール以上、1ヘクタール以上かな、開発協議が要るというようなことと、10ヘクタールを超えれば国土利用計画の、これは町のほうが許可という形になります、受付をしてするという形になりますけど、いろんな手続で相当時間がかかると、3年から5年ぐらいかかる状況があるので、やっぱり早く決めて、その道を進んでほしいということで、僕も企業には言っておるのですけれど、企業のほうもやっぱり収益性とか、いろんな形で検討して、雇用の関係とか、いろんな形をして、最終的には進出決定をするという状況になりまして、そのところが、土地を早く用意しておけば、それだけ得なんで、私は今、農業公園の広場があります。あそこもぜひ、必要であればあそこでもいいですよと、公園はまた造ればいいんだからという。ジョイフルを造ったのが、グラウンドを潰してでもジョイフルを誘致したと、こういう状況。ジョイフルがぜひ来たいという形になったので、分かりましたという形で、すぐに売却できて、すぐに家が建ったという状況になるので、県を通じて、ここはもう企業誘致よという形で登録しておけば、またそれはそれで企業のほうの目がつけば来ていただけるという形になるので、そういう立地可能な土地は、できるだけ早く立地できる土地という形では、非農用地になっているところを県のほうに登録する。そしてまた、こちら側も、いわゆる企業の訪問等をして、こういう土地が

あるがどうですかという話を、これもやっぱり一つ、東京とか関西とかいう、知人のほうから連絡をいただきながら、こういう話があるがということで、これはまた何も無いままではなくて、やっぱりそういう話があれば非常に心強くなるので、福岡でも一緒です。知人の方から、こういう企業、築上町、ちょっと接触してみたいということがあれば、議員さんでもそういう形があれば、ぜひお願いしたいと、そういう形でお会いしながら、築上町に来てもらうことを私は大いにやりたいと思っておるところでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） ありがとうございます。今、町長言われていることもごもっともだと思いますけれども、先ほど例と挙げた内容とちょっとずれていて、企業が来たいからそこでスタートするので、流れている事案が結構あると思うんです、今まで。ではなく、今、農業公園を企業誘致、考えがあるのであれば、そこがではどれだけ使えて、どれだけあるというのを、やっぱり攻めの姿勢で企業誘致もしていかなないと、待ちの姿勢で待っていても、多分何も現状、あまり変わらないと思うんです。では、そこをどのぐらいの規模の、どのぐらいの企業が入れるのか、そこを職員ないし、僕らは把握していないところもあるし、本当にそこが使えるのかというのを、今聞いて分かったことでもあるんですけれども、比較的な内容で企業誘致用の、誘致の土地を町はここで用意していますよというのが上毛町にありました、そこを中津の本社の建設会社を買いました、企業が誘致されました、スムーズなんですよね。逆に、今、町長の答弁だと、多分今までの内容とずっと変わってこない内容を続けられると思うので、また二の足、三の足踏むような気もして、せっかく来る企業が3年先ならよその用地のある場所に移るだとか言ったら、4車線の東九州自動車道、2.5個インターがあるのは多分、築上町だけじゃないですか、3つ近い降り口、乗り口があるところは。それを、例えば、先ほど田村議員もおっしゃっていましたが、物流的なところに倉庫として使ったりだとか、やっぱり苅田港、港も近くにありますが、今回トヨタのバッテリー工場ができる内容等を踏まえると、やっぱり近隣見てももう土地がないんですよね、行橋、苅田、登れば北九州もほとんどない。今回、何万平米か出してすぐ埋まるような状況ですけれども、近隣ですぐ埋まる状況の土地が見えているのに、造ってもできそうな気がするんですけど、その辺はどうでしょう。企業誘致用の別の今までの新しい場所というのは、お考えはないですか。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 非常に、団地を造るという形になれば、町が買収して、そこまでやっていいのかどうかというのは、ちょっと考えるところなんです。やって来なければという問題もございますし、やっぱり来るという形になれば、できるだけ開発可能なところ、そして、今すぐ工

場が建てたいという形になれば、椎田干拓の中の農業公園とか、そういういわゆる非値打ち化したところ、だけど、椎田干拓については海があって、ちょっと標高が低いということで、ちょっと敬遠されているのが一つネック。それで、やっぱりできれば10号線、線路から上のほうがないでしょうかという考え方になってくるので、そのところはそこで、ほとんど圃場整備したり、農振に入った土地ばかりなんです。農振に入っていないというのは、ここの役場のすぐ近くの、自治会でいえば西高地区ですか、築城はもうほとんど全部入っているんです、農振にです、築城のほうは。椎田のほうは、西高とかのここだけが農振の白地というふうな状況があるんで。それと、椎田、中町のところに若干ありますけど、西高とかが全域農振白地だということで、家はぼつぼつ今建っていますけれど、なかなか宅地造成とか工場団地を造成とか、そういうやっぱり大きな金のかかることは町独自ではやれないということで、ぜひ県が何とかお手伝いしてもらえんだろうかというふうなことで、知事部局の企業部あたりに話しには行っておると、そういう状況でございます。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 前向きに企業誘致等の確保、獲得に進んでいるということなので、そのまま続けていただきたいのと、あと、やはり午前中の答弁の内容にもありましたけれども、町長言われている新図書館、築城地区の核とする場所にしていこうという内容に至って、南別府団地の整備的な部分が今後、町有地を売却しながら、若者、子育て世代等しかりですけれども、いろんな人たちに土地の提供ができてくるのかなとは先ほどちょっと思ったんですけれども、南部府団地の退去等の説明会というのが、多分すごい前にあっていると思うんです。今住まわれている、親が住んでいるとか、自分も住んでいるという方と何人かとはここ何か月でお話する機会があったので話したんですけれども、それから何もないらしいですね、ずっと住んでいるけど。周りで聞けば、あの人たちが住んでいるから整備できないとか、解体できないとか、相互の話がうまくいっていない現状があるのかなと思いつつ、ちょっとお尋ねしたかったのは、南部府住宅でいいです。南部府住宅の開発行為を行うのに当たり、解体等の住民説明会というのが以前あったと思いますが、何年前に行われて、なぜそれから行われていないのかを教えてください。

○議長（塩田 文男君） 首藤都市政策課長。

○都市政策課長（首藤 裕幸君） 都市政策課の首藤でございます。ただいまの議員の御質問でございますが、申し訳ございません、説明会が行われたのが何年前かというのは、私自身もちょっと記憶がないです。実際は一丁畑団地が建てるタイミングで、一丁畑団地のほうに移転を促すということで説明会等、行われているはずなので、平成14年から平成17年にかけての間だと思います。その後、市町村合併が行われて、一丁畑団地、実はもう一棟建てる予定がございましたが、その建設がまだめどが立っておりませんので、それ以降は説明会ができない状況でございます。

ます。移転する先がないので、移転の説明会ができていないのが現状でございます。今現在は、一丁畑団地等、空きが出たタイミングで申込み等を促している状況で、全体に説明して、全員が動ける箱が今ございませんので、毎年の家賃決定通知の中に、ほかの団地が空いたら公募に手を挙げられますよ、通常であれば、公営住宅に入居中の方はほかの住宅には移れないのですが、そういう御案内を出しているのが現状でございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） 内容的にはよく分かりました。

先ほど、午前中の町長の答弁等で、今後の南別府住宅の周辺の利用というか、売却等、考えている内容で、やっぱりそこは歩み寄りのところだと思っていて、というのは何人かとお話しさせてもらったという、先ほど説明しましたけれども、内容はやっぱり20年たつと変わっています、今。独り親になっていたり、近隣では孤独死された方もいたと思います。そういう不安定な中で公営住宅にずっと住まわれているというのは、やっぱりこっちからの文面だけの内容ではなく、打開案としていろいろな案が出せると思います。というのは、やっぱり後で行っていいものと急いで行わなければ先に進まないものがあって、今の状況で、では新図書館ができ、大型スーパーができ、その相乗効果でいろんな飲食店ができたとします。でも、ずっと南別府住宅は町有地だけど整備ができない状態が続くような気がします、住まわれている以上。有効的な町有地の活用方法であったり、売却状態にするには、やっぱり町民との話し合いももちろん必要でしょうし、打開案、打開策を町と住まわれている住民の方とやり取りをやって、本気度の部分で、ここが本当に町として必要な、都市計画で必要な場所であるという認識も多分されていないですよ。逆に、20年前に説明受けたけど、そのままおれた状態でほったらかしでは、おやじ、お母さんがおるまでずっとおろうみたいな、何か悪い方向の流れになっているのが現状のような気がして、一丁畑住宅、もちろん今も何戸か空きがあったりするじゃないですか。今ないんですか。ちょっと前に、すみません、春先ぐらいに私用ですけど、うちの息子がちょっと取りたいというときがあったので、まだあるのかなと思っていました。そういう状況で1世帯でも2世帯でも減らしていくことによって、利便、利用できていく内容になってくると思うので、そこはやっぱり過密地だけでは、なかなか人の心等は動いていくものではないと思いますが、今後そういう個別な説明及び集団的な説明会等の実施を行う予定等は、お考えはないですか。

○議長（塩田 文男君） 首藤都市政策課長。

○都市政策課長（首藤 裕幸君） 都市政策課の首藤でございます。すみません、先ほど紙通知というのは言いましたが、実はうちの職員が修繕等で回るたびに御紹介は、声かけをしております。そのかいもあって、ここ四、五年では年間2件から4件程度、実は移転を既にさせていただいてお

りますので、そこも継続して御案内、紙は出すのはもちろん出すのですが、それ以外の面においても御説明していきたいと思っております。

ただ、今残られている方々の中には、先ほど吉元議員もおっしゃられたように、単身高齢者の方とかが多くて、もうこの年になって動きたくないと、もう私の世代だけはおらせてくれという方が、結構そういう方々ばかりになってきているので、今難しくなっているのが現状でございます。

ただし、今回大型スーパー等の移転等で世情も変わってきますので、引き続き地道な説得等をして、高齢者になればなるほど今の住宅よりは一丁畑団地とか、峯原第3団地とかみたいなバリアフリーの環境が整ったところのほうが生活はしやすいかと思っておりますので、その辺を説明してまいり、移転を促していきたいと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 吉元議員。

○議員（13番 吉元 健人君） そういう前向きな内容で、課長、動いてもらっていると思うんですけども、実際、やっぱり現状というか、要は今、解体されていない場所、地域等を見ると、なかなか前に進んでいないかなというのが現状だと思いますので、その辺やっぱり冷静に、みんなの住居なので慎重に扱う部分だとは思いますが、やっぱり年を重ねれば重ねるほど難しくなっていく部分でもあると思うんです。地域でいえば、僕たちが幼少期のときは、あそこは全部、公共団地は全部埋まっていた状況で、今もう半分以上ですか、3分の2ぐらいなくなっている状況なんですか。見た目もよくはないですし、なかなか進まないのは分かりますが、町の考えとして、あの地域が振興、新しい住宅街にするのであれば、やっぱり早い段階でいろんな内容をこっちから持って行って、1世帯でも早く引っ越し等の手続が行えるような内容にしていけば、築城地区の核となる図書館を中心として、一番近い新たなまちづくりといえますか、町長が挙げているコンパクトシティ化に一番最初に取り組みするような地域でもあるなと思い、ぜひ、やっていると思いますが、より力を入れてやっていただければ、せっかく、冒頭からずっと言っていますが、本当、この5年間すごいこの町の内容が変わってくると思います。図書館もでき、24時間のスーパーで利便性も上がり、近隣の企業等が入ってくるという内容もあるので、朝から企業誘致の内容であったり、土地の内容であったり、町に必要なものといえば、町有地がどれだけあるかという確認をした中で、ずっと思っているのが、副町長はお持ちですけど、不動産屋さんとかの、そういう土地の紹介する会社も町内にないので、その辺も、僕も知人等を使いながら、ぜひ築上町に出してくれというお願い等、要望はやっているんですけど、なかなかメリッ的な部分、デメリッ的な部分、てんびんにかけてもデメリッのほうがちょっと、人口的な部分であったりだとか、内容的な部分が明確じゃない部分が、企業誘致の今の話でもそうですけれども、

なかなか明確なものがないので、よそから住もうとするにもなかなかないんですよ、決め手というか。では、企業もちろん、個人的な、先ほど町長が先に言ってくれましたけども、築城中学校の横の町有地、売りに出してやるよというような、目に見えた今から何年かかってこの土地が使えるよではなく、すぐにでも対応できるような土地を少しでも取りかかれるものは取りかかっていき、町の税等にも関わってくることでありますから、人口増減、もちろんすごく関係があるところだと思うので、もちろん真剣にやっているとは思いますが、より一層にその辺に取り組んでいただきながら、町有地の有効な利用性をもっともっと分かりやすく、多分町長も、もちろん課長も真剣にやっていると思います。ただ、そこが直結していない、要は人口増につながっていないというのが、数字での答えしか僕らも出ないので、そこで新しい場所が、こういう何平米の土地が売りに出ましたよ、こういう土地が、こういう方々が他地区から購入されましたよ、築上町に住んでいる息子さんが買いましたよ、そういうのがどんどん聞けるような、やりやすい町の状況をつくっていただくようお願いとして、僕の一般質問としたいと思います。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 回答要らん。どうなの、要るの。（発言する者あり）新川町長。

○町長（新川 久三君） 今、るる議員から御指摘を受けましたので、できるだけ目標に向かって努力できるように、それぞれの部局、頑張るように指示いたしてまいります。（「よろしく願います」と呼ぶ者あり）

○議長（塩田 文男君） お疲れさまでした。

.....

○議長（塩田 文男君） ここで一旦休憩を挟みます。再開は2時からといたします。

午後1時49分休憩

.....

午後2時00分再開

○議長（塩田 文男君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開したいと思います。

次に、4番目に、10番、池永巖議員。

○議員（10番 池永 巖君） 10番、池永巖です。通告書に基づき、質問していこうと思います。よろしく願います。

途中、ちょっと質問事項と質問の用紙で文言を変更すると、削除するというのがちょっとございますので、その点について御了承願いたいと思います。

通告書の1番、近々年収103万円の壁が178万円になることについてということ。「なること」、この文言を「なろうか」ということにちょっと変更したいと思いますので、よろしく願います。

その中の①築上町としての税収入減は現状からどのくらい減になるか。この内容ですが、先般の衆議院の選挙で国民民主党の躍進のきっかけから、現在、人手不足と言われている中でパート従業員等が長時間働きやすくするために、税負担の生じる年収の最低ライン、現在の100万円を引き下げる議論が与野党で行われているということです。現在、7回にわたる会議の中でも結論が出ていない状態と言われているようです。総理もこの件については、よく話し、結論を話し合い、結論を出したいと言っております。

国民民主党の主張は、178万円に引き上げたいという意向です。この金額については、国と地方の税収が七、八兆円減収になろうとも言われております。そのうちの住民税が約4兆円で、地方交付税の減少と合わせると、地方は約5兆円の減収になると言われております。これでは予算を組めない、そういう内容があるわけですが、この内容について、築上町としての税収入減は現状からどのくらい減になるのでしょうかという質問ですが、今まで町が先に進むような話ばかりで、ちょっと腰を折らせるような質問で申し訳ないのですが、よろしくお願いします。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 議会開会冒頭に、私もこの問題に触れまして、減収額は約3億5,000万円、町民税という形になって、県民税を合わせれば、町県民税を合わせれば、大体全部で6億円ぐらいになるのではないかなと思いますけど、あとは純然たる町民税は3億5,000万円減収になるという見込みを立てております。それと、先ほど池永議員も言われたように、地方交付税が大体33%ぐらい本町に、国の、地方に割当てが33%ほどあります。その中で、我々が頂いているのが約50億円頂いておりますけど、それがまたずっと落ちるという形になって。

しかし、先般、石破総理のお話では、地方には負担はかけられないと、このような発言もあっておるようですので、これがどこまでどういうふうになるかというのは、まだ定かではございませんし、住民税の減少分も、国が何とか、減収補填債か何か賄うのか、そういうのはまだ決まっていないようでございますし、交付税も減った分どうなるかという形もまだまだ、非常に今、国民民主党と自民党と公明党の間でギクシャクしておる場面もあるようでございますし、国民民主党はこれを認められなければ、予算案は反対すると、そんな話も出ておるようでございますし、これがどうなるかというのは、まだちょっと我々も先行きが見えないという状況でございますし、今、現実にこれが実施されれば、3億5,000万円ということで御理解いただきたいと思えます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。今、町長が申されましたように、不足分は、1年ぐらいは国が負担できるんじゃないかというような専門家の声もあるようですが、

その次からは国債の発行、そういうことでしのがなければいけないだろうというようなことですが、それが長く続けば、将来的に働く人の負担が大きくなって、それもできないだろうというような話があるようです。

次に、②に、その減収分の補填として国でも対策があるかもしれないが、町としては何かその対策は考えられるでしょうかということ、御意見があればお願いいたします。

○議長（塩田 文男君） 元島企画財政課長。

○企画財政課長（元島 信一君） 企画財政課、元島でございます。先ほど町長が申し上げたとおり、約3億5,000万円で減収されますと、そのうちの75%が地方交付税で算入されて返ってきます。残りの25%が一般財源の不足になります。約8,700万円になると思います。8,700万円の減収分について、町としてどういうふうに対策をやっていくかということなんですけども、収入面からいけば、税収がそれだけ減るということになりますと、今、町の貯金であります財政調整基金から8,700万円を繰り入れるしかないのかなというふうに考えております。もし、その収入面のほうを繰入れをしなければ、歳出のほうで、一般財源で今賄っております経費のほうを8,700万円削るしか、今のところ町のほうとしてはその2つの対策しかないのかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。この収入が少なくなれば、一番最初に影響を受けるのが教育関係、それから町がやっとなごみ収集、そういう面で影響が出てくるだろうというようなことも書かれておりますが、質問に書いていないんですけど、そういう面で、教育長さん、何か。すみません、よございますよ、突然の。そういうことで、この問題、106万円の声、130万円の声、150万円の声、いろいろあるようですが、国もこれについていろいろ討議して、1年以内ぐらいに結論が出るのではなかろうかと思うので、いろいろ町民の皆さまもそういうことが現在起こっておるということを一応知ってもらおうというようなことで、私がちょっと、これ、取組が早過ぎたんじゃないかと思ったんですけど、こういう問題で取り上げさせてもらいました。

それでは、次の2番目に入らせてもらいます。田舎の生活様式、風習等に関してということで、コロナの関係で四、五年経過したわけですが、生活様式、田舎の風習の変化等が生じてきているのではないかと私自身思うんですが、それについて町のほうで感じるようなことがありましたらお聞きしたいんですけど。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） コロナ禍の地域の風習についてという形でございますけれども、基本的

には町はあまり風習には関わっていないという形になり、ただし、伝統文化の継承、保存ということで、神楽や楽、それから県の無形文化財になっている香楽の円座餅搗、こういうものについては地域の風習で、文化財という形の中で、伝統文化の保存という形の中で町のほうも関与しておるわけです。あとはそれぞれ、いろんな自治会の中にいろんな講組とかいろいろあります。そういうところでやっぱり話し合いをしていただきながら、伝統文化の保存と、そういう話し合いがもう壊れつつあるという状況も私どもも認知している。自治会制度そのものがだんだん壊れてきておるということで、非常に危惧はしておりますし、その中で、自治会の中でもそういういろんな講組制度というのもだんだん簡素化されてきておると。毎年お客事を年に1回やって、そこで村の決め事をする、そういうものがだんだん簡素化されて、そういう話し合いの場もなくなってきておるということで、これは本来なら、町としては、ぜひそういう形で地方自治の自治会の自治という形の中で、ぜひそういうものは残していただきたいと思っておりますけれど、なかなか今の時世、コロナ後、特に激しくなってきたかなというふうに感じておるので、しかし宗教的なものについては、町としては金が、公金を出せないという形になっておりますし、非常に地方の風習というものは、宗教的なもの、神社、仏閣の縁が多くございますので、そのところで町としてはあまりいろんな形で公金を出せないし、世話を焼けないという形になっておるので、ちょっとやはりコミュニティが崩壊しつつあるかなという今は問題が持っている、この構築は、コミュニティの崩壊については、町のほうは何とか維持したいなと思っておりますのでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。今、②になるんですけど、昔からある田舎の風習は大なり小なり残していきたいと私も思っておりますが、それについてはいかがなものでしょうか。例えば、盆踊り、葬儀等。葬儀は、これについてはお金の関係もありまして、これはあまり強く言えないわけですけど、本当に田舎のほうで、私の田舎のほうで、昨年数名の方が亡くなられて、盆踊りはどうするかと思っただけですけど、盆踊りの希望者が出なくて、盆踊りはできなかったというような状況であります。やっぱりこれとしても、亡くなった者を弔うというような意味で、この盆踊りは続けてやってもらいたいと思うんですが、昔は盆踊り大会とかいうのも各地であってあったみたいです。今年ですか、飛行場の夏祭り、そのとき、やぐらを囲んで盆踊り、築城音頭等の踊りなんか、今年見るところによると、本当に一時の元気さはなくなっております。そういう内容もあって、今度、図書館ができれば、あの図書館の前の広場で盆踊りのそういう芸を出して、みんなで喜ぶとか、みんなで元気づけるとか、そういう催しもあってもいいんじゃないかと私は思っております。

昨日、延塚奉行さんの189年供養祭、189年というのは本当に長い、よくできておるものだなと私どもも感心するわけですが、そういうこともありまして、できれば築上町を元気づけるようなことで、そういう盆踊りのメンバーなんかをつくって、地域で盆踊りがあるときにはその人たちに来て踊ってもらうとか、そういう催しができればいいなと私自身思っておるんですけど、そういう内容で御意見がありましたらよろしくお願いします。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 地域の、これも伝統という形になりましようけど、先ほど申したように、コミュニティが少しずつ崩壊しつつあるという形の中で、再構築するのはやっぱり皆さん、それぞれ自治会内の皆さんの話合いによって継続すると。これやないと町が幾ら言ってもできるものではございませんし、できるだけ自治会の中でお願いしたいと思っておるところでございます。そうすることによって、同じ自治会長さんの集いの中で、そういう大会をずっとやろうじゃないかと、町がはい、やるよという形ではなくて、盛り上げる、いろんな祭りがある中で、今年夏にサマーフェスは自衛隊の中でありましたけど、これはもう築上町音頭を一緒に踊ったりとか、そういう形で、これはもう自衛隊の企画、実行委員会の企画の中で、そういう形で、中に来ている方はどうぞ中に入って踊っていただきたいというふうな放送の中で、大きな輪ができていったという状況もございますけど、基本はやっぱり、私は自治会の中でそういう取組を強化していただくということが大事ではなかろうかなと思っておるところでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。今の町長の話では、各自治会でそういう内容については検討して行って、前に進むというようなお話でございます。私どももそういうことで頑張っていこうと思います。

それで、この③で、そのようにしていくためには町としての指導、補助、援助等できるようなことは考えられないかということで、ちょっと挙げたわけですが、そういう内容については、町として援助等はできないというような先ほどの御回答だったと思います。そういうことで、町としても金銭的な援助ではないで、指導できる内容があったら、またよろしく願いするところでございます。

取りあえず、私は元気な町を、町長は縮充ということで今言われて、これも立派な内容ですけど、やはりだんだん人口が少なくなっていくというようなことで、築上町はその一つに挙げられておるといようなことで、やはり元気な町を今後とも構築していかなければといようなことで、私はこの質問を終わりたいと思います。

それから、3番目に、学校設備、遊具等についてということで、①「全国で」という、この言

葉を削除したいのですが、学校設備の遊具で子どもが負傷するという事案が発生しておりますが、これに関係して我が町では学校の遊具等はどうのように検査等行われているかという質問ですが、よろしくをお願いします。

○議長（塩田 文男君） 鍛冶学校教育課長。

○学校教育課長（鍛冶 孝広君） 学校教育課、鍛冶でございます。御質問の件でございます学校設備に関しては、非常に広範にわたることから、不具合が生じた箇所、あるいは不具合が生じ得る可能性が高い箇所について、予算の範囲内で適宜修繕を実施しているというところでございます。

それから、お尋ねの遊具については、2年に1回、これは安全点検を実施しております。危険度に応じて、AからDまでランク分けを行っており、危険度が高いと判断されるDランクの遊具については、使用停止措置を取る、また遊具の撤去、または更新等を行っているというところでございます。

また、ブランコの鎖など、消耗度合いが高い箇所については、ランクがDランクでない場合であっても交換を実施するというような措置も行っているところでございます。

使用不可と判断された遊具の更新等につきましては、学校ごとに児童数や敷地面積が異なることから、一律の基準は設けておりませんが、教科活動に使用可能な鉄棒であったり、雲梯等の設置状況等を考慮した上で、学校との協議により更新等を進めているというところでございます。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。最近のこういう事故というのは、どこでどのような事故が本当に起こるか分からないような時代になっておると思います。そういうことで、この②の生徒、子どもがけがをした場合の保険等については、どのような体制が取られておるのでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 鍛冶学校教育課長。

○学校教育課長（鍛冶 孝広君） 学校教育課、鍛冶でございます。学校における保険制度としましては、独立行政法人日本スポーツ振興センターが行っている災害共済給付制度というのがございます。これは、学校管理下での児童生徒の負傷、疾病、障がい等に対する補償制度ということでございます。これについては任意加入ということでございますが、本町では町内全ての小中学校の児童生徒が対象として加入しております。児童生徒の学校での事故などをカバーする制度ということになっております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。このけがをしたときの補償問題というのは大変重要なことだと思います。保険についてはくれぐれもよろしくお願いします。

それから、一つ、この災害について私の余談になろうかと思いますが、最近、東京でイチョウの木が折れて、その影響で命を落としたというような事例があります。それで私、教育新聞を読んでおりますと、2年前に鹿児島でイチョウの木の下を掃除をしておった校長先生が、イチョウの木が、枝が折れて命をなくしたというようなことで、イチョウの実は隔年でたくさんなるそうです。だから、その重りでもって枝が折れて命をなくした、そういうのを私もよく知らなかったわけですが、これは余談として聞いておってもらえればいいかと思います。そういうことで、突然の災害、いろいろ本当に今どこから何が落ちてくるか分からないし、何が飛び込んでくるか分からない。本当にそういう変な時代と言ってはおかしいんですけど、そういう時代になっとなんで、子どもさん、私どももそうですけど、災害についてはくれぐれも気をつけていかなければいけないと思っておるところです。

それでは、最後、4番目の基地に関する立ち退き跡地の樹木の現状についてということで、皆さんも御存じだろうかと思いますが、旧築城町の弓の師地区です。メタセの杜のちょっと上のほうになるんですけど、樹木が太って、道のもう真横まで太ってきておるところが2か所ほど、そんな長い距離ではないんですけど、あります。そして、その中も全く見えないような状態があります。私どもは怖くはないんですけど、やっぱり子どもさんにとっては怖いというか、今、イノシシ、鹿がどんでんうろうろするときでもあるし、そういう動物が急に飛び出さないということもないと思うんですけど、そういう動物が飛び出してきたときに本当にけがをすとか、そういうこともあるかと思うので、これは自衛隊さんのほうにそういうところを見て、ぜひ下枝二、三メートルぐらいは枝を落としていただき、中が見えるような内容にしてもらいたいんですが、これは安全と防犯に関することでもあろうかと思いますが、そういうところをお願いしたいんですが、どうでしょうか。

○議長（塩田 文男君） 椎野総務課長。

○総務課長（椎野 満博君） 総務課、椎野でございます。基地関係の立ち退き跡地の管理につきましては、当然、防衛省の責任において管理すべきものと考えます。

樹木の管理不足につきましては、防犯面において、不審者の侵入やごみの不法投棄などのおそれがあり、早急に改善すべき事項と考えております。

御指摘のとおり、国有樹の樹木が成長し、道路横付近まで枝葉が茂り、見通しが悪いところがございます。九州防衛局に確認しましたところ、下枝を落として見通しをよくすることは可能ということでございましたので、その指摘箇所につきましては早急にお伝えして、九州防衛局のほうに管理していただくように伝えたいと考えております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。早速、そういうことで、あそこの木を伐採ではないですけど、枝を落として見通しのいいようによろしくお願いします。

それでは、5番の図書館の移転工事・自愛の家の改修工事等の進捗状況についてお聞きしたいと思うんですが、図書館の内容については、先ほど田村議員のほうからいろいろ質問があって答えていただきましたので、自愛の家の内容について今聞かせてもらえればありがたいんですけど。

○議長（塩田 文男君） 種子保険福祉課長。

○保険福祉課長（種子 祐彦君） 保険福祉課、種子でございます。ただいま御質問いただきました椎田社会福祉センター自愛の家の改修工事の状況についてでございますが、先日、変更契約の議決を皆様からいただきました。今後、検査を行い、検査終了後に引き渡しとなる予定でございます。また、来年には備品の納入及び電話工事などを実施し、その後、指定管理者である築上町社会福祉協議会さんが、築城社会福祉センターのほうからの移転を進めていくという運びになっております。

私からは以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 池永議員。

○議員（10番 池永 巖君） ありがとうございます。自愛の家ももうすぐ出来上がるのではないかと思います。またよろしくお願いします。

それでは、これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（塩田 文男君） お疲れさまでした。

.....

○議長（塩田 文男君） それでは、このまま行きたいと思います。5番目に、**1番、今富義昭議員**。

○議員（1番 今富 義昭君） 議席番号1番、今富義昭でございます。2024年最後の一般質問ということで、議長からもありましたように、私、ずっと1時間近く、長々と一般質問をさせてもらっておりますので、今回5人目ということで、皆さん眠気も来ているでしょうから、早めに終わりたいと思いますので、皆さん、御協力のほどお願いしたいと思います。

それでは、初めに新図書館の運営についてということで、幅広い利用者層が利用するための方策はあるのかということをお聞きしたいと思っております。前にも、様々な議員の方が、運営内容についてどういうものが考えておられるかという質問があったと思っております。また、その答えをもう一度お願いしたいんですけど、新たに今度特色ある、こういうものもしますよという目玉になるようなものがあれば、併せてお願いしたいと思っております。

○議長（塩田 文男君） 尾座本生涯学習課長。

○生涯学習課長（尾座本三雄君） 生涯学習課、尾座本でございます。新図書館につきましては、子どもから高齢者まで幅広い利用者層に利用していただくことが大切だというふうに考えております。

そのための方策といたしましては、大人向けや子ども向けのお話会、趣味につながるイベント、10代、20代向けの展示コーナー、子育て世代の講座やワークショップなど、その利用者層の関心のあるイベント、興味を引く展示を行っていきたいというふうに考えております。どのような利用者層を対象とするのかを明確にしたジャンル別にイベントや展示を計画することによって、様々な利用者の集客を図りたいというふうに考えております。

また、おしゃべりや飲食が可能なコーナーや遊べる本棚、営業時間の延長など、今まで図書館を利用したことがなかった人たちが訪れやすい雰囲気の図書館づくりをしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） 多分、前回説明されたのと同じではなかろうかなと。新しいものはこれだというのはありましたか。前、ボルダリング等ができるようなスペースがあるという話をされていなかったですか。

○議長（塩田 文男君） 樽本教育施設整備室長。

○教育施設整備室長（樽本 知也君） 教育施設整備室、樽本でございます。一部、遊べる本棚の中に、急勾配ではございませんが、小さい子どもでも危なくないようなボルダリングをする機能を備えております。

以上でございます。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） ぜひそういう新しいものについてどンドン情報発信をして、幅広い層の方が利用できるということを宣伝してほしいと思います。

もう一つ、3階のスペースについては、前、私言ったんですけど、ジムの的なものを作ったらどうかという話をしたときに、指導員を雇う必要があるという話をされて終わったと思うんです。私の言っているのはそういうものではなくて、チョコザップとかそういうもの。ぱっと来て軽運動ができて帰れるものとかです。それとか、高齢者ができるようなピラティスとか、そういうものができるスペースを4階にしてはどうかという話だったんです。そのところはこれから先、検討の材料になるかということをお質問させていただきます。

○議長（塩田 文男君） 尾座本生涯学習課長。

○生涯学習課長（尾座本三雄君） 生涯学習課、尾座本でございます。3階はワーキングスペースということで現在は計画はしておりますけれども、今後、社会状況とか、利用者のニーズ等によっては、そこら辺も臨機応変に検討のほうはしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） いろいろ臨機応変によろしくお願ひします。前回話したときに、年間で2万5,000人の利用者を予定しているということだったので、それを2万5,000人という殻を破って、ゼロ一つ多く想定するぐらいの考えを持って運営を行っていただきたいと思ひます。

次に、2番目の利用者の交通手段は考えているのかということで、前、他の議員さんが、コマーレ内の図書館については、新しい図書館ができれば閉鎖するのかなという質問があったときに、閉鎖をしますという話だったんじゃないかと思うんです。これ、今さら言っても同じなんですけど、支所ではない、支館としての形で残すという考えはなかったのかと、あと、使われている方がコマーレ周辺、椎田地区の方については徒歩等で利用できる状況にあったと思うんです。それが今回、新図書館になった場合に、かなり交通の便が悪くなり利用しづらくなるという、そういう利用者目線でそのところを考えたことがあるかという質問です。

○議長（塩田 文男君） 尾座本生涯学習課長。

○生涯学習課長（尾座本三雄君） 生涯学習課、尾座本でございます。議員がおっしゃられたとおり、確かに場所が移動すれば、現在利用している方からすれば少し遠くなるというふうな状況は当然あるかと思ひます。ただ、図書館の利用者の交通手段ということで、以前アンケートを取った際には約7割が自家用車を活用しているというところで、今回、新しい図書館にしましては、駐車場の数に関しては、現在のコマーレよりもかなり多くの数が確保できているというふうに考えております。ただ、当然、自家用車を持っていない方がいらっしゃると思ひますので、そういった方はコミュニティバスのほうを利用していただければいいかなというふうに思ひます。ただ、コミュニティバスの利用状況については、コマーレ発というのはなかったと思うんですけど、本町から新しい図書館へという築城巡回線を活用していただければというふうに考えております。また、こちらの時刻表の改正等についても、コミュニティバスの担当課とも協議して、なるべく利用しやすいような状況をお願いしているところでございます。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） コミュニティバスということで、毎回私はコミュニティバスの関係を言ってきております。前回の議会のときに桑野課長にお話ししたところ、来年度に県の予算

をもらって何か調査をするという話をされておりましたよね。その前の年の質問のときに、図書館等が建つのであれば、全体の計画を各課と連携してやってほしいという話をしていたと思うんですね。今言われた尾座本課長の答弁の中では、その関係についてはまちづくり振興課のほうでという話で、そのコミュニケーションが取れているのであれば、来年の11月オープンですよね。11月オープンであれば、11月に間に合うようにコミュニティバスの整備も必要ではないかと思うんです。そのところをお願いします。

○議長（塩田 文男君） 桑野まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長（桑野 智君） まちづくり振興課、桑野でございます。ただいまの質問なんですけれども、生涯学習課のほうと情報交換をしているところです。コミュニティバスのダイヤ改正で、以前、旧築城支所の図書館の工事に入る際に停車しないようにしています、コミュニティバスのほうで。それをダイヤ改正前のように停車するように改正したい旨、業者のほうに今打診をしているところです。また、3月にJRのダイヤ改正も控えていることから、その辺も含めて業者のほうと協議していきたいと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） そういうことであれば、早急にオープンに間に合うように、業者との連携をお願いしたいと思います。1番の質問についてはこれで終わります。

次に、新図書館周辺の開発構想についてということで、新図書館周辺を発展させるための構想はあるのか。これ、ちょっと漠然とした質問なんですけれども、先ほど吉元議員、田村議員が言われた企業誘致との関連がかなり大きいと思うんです。私的には、常に町長が今度の新しい図書館については起爆剤という話をされて、それを起爆剤として周りを集住化させて、そこに集める。先ほども南別府の住宅の関係も含めて、町長がそのところをという話でありましたが、課長の答弁としては、そこにおられる方がいなくなるのを待つというような話には聞こえませんでした。だから、言っている計画とそのところが合致していないなど。それより、先ほど吉元議員、田村議員が言っていたように、企業誘致というのがただ単に製造業とか運輸業とかそういうものだけではなく、今度大型スーパーもできることですし、新図書館の横に広場がありますよね。それと、大型スーパーができる横にも空き地がある。あそこら辺にチェーン展開をしているような飲食店、人がよそからたくさん集まれるような飲食店の誘致等というのも一つの企業誘致ではないかと思うんです。そこら辺の企業誘致というか、飲食店の誘致等を行政としてやるという気持ちはないかということをお尋ねします。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。今、企業誘致の関係で質問がありましたので、

産業課のほうで答弁させていただきたいと思います。

フランチャイズの飲食ということで、前回、臨時会にて大型小売店舗の企業推進の条例改正をいたしておりますので、今後につきましても、フランチャイズであったり、飲食を含む大型小売店舗に属するものが周りに、先ほど言った土地も含めてですけれども、地域住民の利用に供することであればあると思いますので、そちらのほうは推進ということであれば、町長が言われた大きな核として結びつくと思いますので、そちらのほうも産業課としてもいろいろ情報を探しつつ、情報を出しつつということで取組をしていきたいなと思っております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） ぜひお願いしたいと思います。大型スーパーができ、そしてそういう飲食店ができれば、おのずと他の企業もそこら辺に集中してくる。集中してくれば、一般の用地を持たれている方がそこにアパート経営をするとか、そういう形で集住化が図られる、コンパクトシティ化が図られる第一歩になろうかと思えます。起爆剤ということで、起爆剤はいいんですけど、それを爆破させて荒地になってしまったら元も子もないので、ぜひ早めに対応をお願いしたいと思います。この質問、もうこれで終わらせていただきたいと思います。

次に、社会福祉センターの跡地利用について、今後どうするのか、何か計画はあるのかということで、単純に来年の4月1日運用開始を目指して、今、椎田社会福祉センターが築上町の社会福祉センターとして改築されているところです。現在の築城の社会福祉センターの跡地について、現状のまま利用するのか、それとも取り壊してするのかとか、何か将来的にあれをどう活用するかというのが今、構想としてあればお願いしたいと思います。

○議長（塩田 文男君） 新川町長。

○町長（新川 久三君） 基本的には、建物ごと売却できればいいかなと思っております。できなければ、建物を壊して更地にして売却するかという形で、まずは建物を建てたまま売却という、もしくはいろんな方法があろうと思えますけど、町の所有権を離したいと、このように考えております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） 分かりました。この件についてもスピード感を持ってお願いしたいと思います。

次に、4番目の地産地消について、地産地消対策は行っているのかということで、あまり早く終わり過ぎそうなので、ちょっとこの部分は時間を取らせてもらいます。

地産地消ということで、地産地消は農業の振興とか地域振興、環境保全等々の役割があって、

食育活動の一環も担っているということを見たことがあります。また、地域で作られた物を地域で消費するという事は、応援消費という事です。これは、地域を元気につなげると。地域内で生産された物を地域内で消費することを地域経済が循環するという事です。地域を持続的に維持していくためには、地域経済が循環型構造になっていることがとても大切だと、これは昨日の講演の中でも言われていましたSDGsにつながる事だと思います。

そこで、今現在、築上町において地産地消と言える取組を何か行っているかということでお尋ねします。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。現在の築上町の地産地消の取組ですけども、今、今富議員が言われた中に食育というキーワードも入っております。築上町においては、主に食育、そして地産地消、こちらは先ほど、地域生産、地域消費を総称して地産地消という略語となっております。この食育、そして地産地消を併せ持って、今、資源循環型農業を築上町では位置づけとして、食育、地産地消を含めて学校の授業であったり、学校の食育、学校給食のほうにシャンシャン米「環」であったり、築上町産の米を米飯給食として使用をしてもらっております。こちらについては、使用等含めて、子どもたちに地産地消の話、そして食育の話を併せ持って、学校の授業で年10回前後、産業課の職員が行って、地産地消を含めた話をしております。

まだいいですか。あわせて、地産地消で、そちらが大きな食育と地産地消を併せ持ったプログラムとしておりますけども、個別事案としていたしましても、今、個別に6次化というところも地産地消に関わってくると思います。最近であれば、6次化という言葉が本当に出てきたんですけども、域内、築上町でできたものをそのまま流通、加工して、1次産業、2次産業、そして3次産業で6次化という定義になってはいますが、こちら併せて地産地消を推進する立場としてはいろいろマッチングをしたり、例えば業者のほうでこういった食材、材料がないですかという問合せがあったら、そこでマッチングをさせたりとか、そういったところの取組も地産地消の推進だと思って、今そのほうにも力を入れてやっているところです。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） ちょうど私、後で6次化のことを言おうと思っていましたので、今出たんで、そのところも考えてもらっているんだなど。地産地消の主な取組として考えられるのは、直売所で農産物、魚介類等を販売、提供するものと、あと地元産を使った、築上町でやっている学校給食に地元産の農産物を提供する。昔はあったみたいですけど、朝市等による生産者との対面の販売を行うというのが主なもの。それと、もう一つは先ほど6次化という話もありましたけど、地元食材を使った料理の提供。地元の飲食店等に地元産の物を使ってくださいと、

今、県のほうが実施していますよね、県産品を使っのいろいろな飲食店にという取組を、やはり築上町の中でもそういうマッチングをするという話、先ほど出ていましたけど、そののころを含めて実施してもらいたいと。また、6次化といっても、いろいろ言っている6次化の中で、6次化の定義としてまず1つ目に、商品開発をアドバイザーに紹介して、ちょっとごめんなさい、口が回りません。アドバイザー事業です。商品の開発を手助けするというのがまず一つです。2つ目に、今度は試作品を作るために、誰でも使えるような加工所の提供を行政が加工所を造って、試作品を作るための施設を提供するという。また、3つ目に商品販売のためのバイヤーとの商談会のあっせん。先ほど言われていましたそういう形のバイヤーとのセッティングをするという、これらのものがあるかと思いますが、これらのものについて実際にこれからやると、本当にやっているというものがあれば教えてください。

○議長（塩田 文男君） 古市産業課長。

○産業課長（古市 照雄君） 産業課、古市です。今言われた商品開発も6次化にとっては必要な部分だと思っております。そして、商品開発、販路、あとは加工です、作る場所等についても必要不可欠なものだと思っております。本町といたしましても、そちらのほうは、今のところ加工場が町のほうで整備されているかといったら、整備はされておられません。しかしながら、今回、12月の今月の半ばに、私は就任してから、産業課に来てから3年目になりますけども、その中で6次化の方々が集まる機会というのがなかなかないなというところがありまして、今回、6次化の方とか、6次化に関する方、全員を網羅するわけではないんですけども、一回集まって、その中で意見交換をしようということで、皆さんと今までは役場と6次化の方の対一の関係性でしかなかったんですけど、それを6次化の方を含めて横連携をつくらうということで、今度集めているいろいろ意見交換、本当に協議会とかではなくて、集まってどんなところをやっているんですかという、それを6次化産業の販売店の横連携であったり、行政とのいろいろな意見交換、そして6次化は何をもっても必要な地場産ですね、そちらのほうも地産地消につながれますので、そちらのほうの提供、マッチング等もできる可能性があれば、産業課としても取組を一緒にやっていきたいなと考えていますので、その前段階として、今回一緒に集まって意見交換をする予定にしております。

以上です。

○議長（塩田 文男君） 今富議員。

○議員（1番 今富 義昭君） ぜひ行政がそういう形でイニシアチブを取って推進してもらえれば、そこら辺の方々、また新たにやりたいと思われる方と今やっている方とのマッチングですね。どういうところを苦労するとか、どういうところが大事というのは直接聞けると思うんです。そういうものもぜひ行ってもらって、また広い意味での地産地消をぜひ町として推進してもらいた

いと思います。

約束どおり、これで早めに終わらせていただきますので、ありがとうございました。

○議長（塩田 文男君） お疲れさまでした。

それでは、これで本日の一般質問は終わります。残りの質問については、明日10日に行います。

○議長（塩田 文男君） 本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時56分散会